

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-01	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	地域少年育成活動補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	鈴木
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-08-01	地域少年育成活動補助					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業 ●それ以外の継続事業			
開始年度	●昭和 ○平成 41年度		根拠	荒川区補助金交付規則			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画 ●非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	03 体験学習等の推進					
目的	子どもたちが協調性、生活能力、チームワークを学び、リーダーとして活動できるようにするため、異年齢交流・集団生活・野外生活等のグループ活動を支援する。						
対象者等	荒川区少年団体指導者連絡会（以下「荒少連」と略す）						
内容	<p>それぞれの事業に対し、事業費の一部を補助する。</p> <p>【少年キャンプ（チャレンジキャンプ）】 区主催のチャレンジ共和国に参加した小中学生等を対象に、共和国で学んだことを実地で体験し、生きる力を養うことを目的に、各地のキャンプ場等で実施 ・平成26年度：8月7日（木・夜発、船中泊）～10日（日）、伊豆大島 ・平成27年度：8月7日（金）～8月9日（日）、国立那須甲子青少年自然の家</p> <p>【子ども会大会】 子ども会に加入している小学生、少年キャンプ参加者等を対象に、各子ども会や子ども同士の交流等を目的にゲームやウォークラリーなどを実施（例年11月末）</p>						
経過	<p>【少年キャンプ・子ども会大会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和38年度 子ども会大会を開始 ・昭和41年度 少年団体指導者研修会（リーダーキャンプ）開始 ・昭和62年度 リーダーキャンプを「チャレンジキャンプ」として拡大 ・平成12年度 荒少連への補助事業としてキャンプと子ども会大会を実施 ・平成26年度～組織改正に伴い、生涯学習課において、教育委員会事務の補助執行として実施 <p>※以下の事業は、平成26年度～組織改正に伴い、スポーツ振興課へ事務移管</p> <p>【わんぱく相撲】 ・昭和49年度 開始 ・平成18年度 実行委員会に対し補助金を交付</p> <p>【鉄人レース】 ・平成13年度 南千住地区の子どもたちを対象に開始 ・平成20年度 実行委員会に対し補助金を交付</p>						
必要性	子どもたちが野外活動やウォークラリー、トライアスロン、相撲等を通して、自主性や協調性、社会性を養うことは、心身の健全育成に大きく寄与するものであり、必要性は高い。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） 各主催団体に対し、区が補助する。 【主催団体】荒川区少年団体指導者連絡会						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		予算額	2,245	1,745	1,818	1,818	3,711	2,165
①決算額（27年度は見込み）		2,236	1,739	1,814	1,811	3,710	2,158	1,318
②人件費等		896	1,587	2,390	1,900	582	1,159	
③減価償却費			726	1,089	742	237	488	
【事務分担量】（%）			25	35	23	7	15	
合計（①+②+③）		3,132	4,052	5,293	4,453	4,529	3,805	1,318
特定財源	国							
	都							
	その他							
	一般財源	3,132	4,052	5,293	4,453	4,529	3,805	1,318
実績の推移	キャンプ参加者（児童・生徒）	77	70	64	88	83	78	120
	子ども会大会参加者（児童・生徒・育成者）	195	233	173	164	202	165	170
	わんぱく相撲荒川区大会	383	467	513	530	526	-	-
	鉄人レースイン汐入	345	379	329	335	350	-	-

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	3,698	旅費	職員旅費	13	旅費	職員旅費	13
旅費	職員旅費	12	負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	2,145	負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	1,305

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① キャンプ参加者数	132	120	119	120	130	運営者を含む
	② 子ども会大会参加者数	164	202	165	170	250	
	③						

（問題点・課題 指標分析）	補助対象事業の効果的な実施のため、子どもたちが集団生活から協調性等を学ぶのに適切な人数と期間を設定している。そのため、キャンプについては、チャレンジ共和国の参加者で、準備会も全3回出席できる方を優先受付している。
	（実施 16 区 未実施 6 区 不明 0 区）
他区の実 状況	

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	効果的な事業実施を支援するため、各学校や他部署の行事予定を把握し、なるべく日程が重複しない時期に実施できるよう調整する。	事業実施日は、準備会の日程も含めて、各学校や他部署の行事予定を把握した日程調整をすることができた。	団体との連携をより一層密にし、自然体験等の事業を充実していく。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	子どもたちの健全育成に必要な体験活動を推進するために、補助を継続する。

況 議 会 （ 要 旨 ） 問 状	H26 11月会議 子ども自然体験事業の充実について
---	----------------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-02	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	少年教室	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	鈴木・米山
							3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-08-02	少年教室					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成 59年度		根拠	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
終期設定	○有 ●無		法令等	荒川区小学校合宿通学事業補助金交付要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	03	体験学習等の推進				
目的	日頃自ら物を作ったり、汗をかくという直接体験が不足しがちな現代の子どもたちが、学校や家庭では体験できない様々な体験教室に参加することによって、異年齢交流や学校以外の友達づくりのきっかけとなり、地域での自発的な活動につながるとともに、発見の喜びや「自主性・創造性」を伸ばす。						
対象者等	【チャレンジ共和国】小学3～中学生 【少年少女体験教室】小学生3年生以上 【中学生ロボコン】中学1～2年生 【中高生リーダー養成講座】中～高校生						
内容	【チャレンジ共和国】小学生（エッジョイコース）約120名、中学生（マスターコース）約20名 荒川区少年団体指導者連絡会（以下、荒小連）や青少年委員連絡会との企画会議で内容を決定する。 5～6月の計4～5回実施。工作、レク、調理、化学実験、モノづくりなどを実施する。 【少年少女体験教室】 ・大きな紙ヒコーキを作って飛ばそう（23年度まで「ペットボトルロケットを作ろう」）※親子15組 ・荒工おもしろ体験教室…3コース（サドプラストのコップ作り・電子工作（ホイスロダ）・うちわ）、各定員30名 ※平成27年度は、荒工のエアコン工事に伴い、1コース（サドプラスト）のみ実施予定。 【中学生ロボコン】定員50名 ロボット製作と競技会を実施。準備会12～1月に6回（最終日高専大会）のほか、北区大会2月、産業展大会3月、エキシビジョンマッチ大会4月 【中高生リーダー養成講座】イベントの企画・運営、レクの実習等を行う						
経過	【チャレンジ共和国】昭和59年度開始 【少年少女体験教室】平成5年度開始 ・荒工おもしろ体験教室：平成12年度開始 ・ペットボトルロケット（高専おもしろ教室）：平成13年度～23年度 ・大きな紙ヒコーキ（高専おもしろ教室）：平成24年度～ 【中学生ロボコン】平成13年度開始 【中高生リーダー養成講座】平成20年度から中高生リーダー研修として実施、平成23年度に改称 平成25年度はスケジュール上の都合で実施なし 【合宿通学】平成11年度に試行的に実施、平成13年度から実行委員会形式で実施し、補助金を支出 ※平成26年度から、事務執行については、合宿通学は教育総務課、それ以外は地域文化スポーツ部生涯学習課が教育委員会事務の補助執行として実施することとなった						
必要性	直接体験が不足している中、子どもの体験活動の機会を増やし、興味や関心を高めるとともに、共同作業を通して協調性や自主性を養う事業であり、必要性は高い。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） チャレンジ、養成講座…共催：荒小連／体験教室…共催：荒工／紙ヒコーキ…協力：産技高専／ロボコン…共催：北区教委、自然科学フォーラム、協力：産技高専／合宿通学…主催：実行委員会						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		1,695	1,767	1,660	1,678	1,606	801
①決算額（27年度は見込み）		959	907	1,222	1,249	1,103	522	797
②人件費等		7,006	6,175	9,327	8,330	6,704	5,220	
③減価償却費			4,038	5,007	6,325	4,157	2,698	
【事務分担当量】（%）			139	161	196	123	83	
合計（①+②+③）		7,965	11,120	15,556	15,904	11,964	8,440	797
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源		7,965	11,120	15,556	15,904	11,964	8,440	797
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	チャレンジ共和国参加者数	174	176	226	233	184	236	209
	少年少女体験教室参加者数	153	106	136	113	112	102	60
	中学生ロボコン参加者数	43	48	42	41	48	47	50
	合宿通学（参加者数／実施校）	160 / 8	184 / 9	184 / 9	164 / 9	177 / 9	—	—

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	合宿通学事業補助金	597	報償費	謝礼	326	報償費	謝礼	515
報償費	謝礼	312	需用費	消耗品費	196	需用費	消耗品費	274
需用費	消耗品費	194				使用料等	中高生宿泊研修会場使用料	8
使用料等	中高生宿泊研修会場使用料	0						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
①	チャレンジ共和国参加率（%）	89	86	83	85	90	延参加者数／延申込者数
②	少年少女体験教室・中学生味'コン（参加者数）	154	160	149	110	170	27年度は会場工事に伴う実施コース減少のため、参加見込が減少
③							

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> 「チャレンジ共和国」については、例年、毎年定員以上の応募があるが、育成者を確保し、実施方法を工夫して全員受入れている。今後も、参加者の安全を確保できるような事業運営と、参加率向上のために実施日（学校行事と重なっていないか）及び実施内容等の検討が必要である。 「荒工おもしろ体験教室」は、コースによって参加希望者数に差があり、抽選が必要なコースと全員受入れ可能なコースがある。会場・講師・使用する機械の関係で現状の内容（コース）では、定員に限度があり、全申込み者を受け入れることが難しいことから、定員を増やすためには内容を検討する必要がある。
	他区の実況 （実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	チャレンジ共和国においては、講座内容、育成者数を検証し、できるだけ多くの子供が安全に参加できるように検討する。	看護師と必要な医療物品の整備を行った。また、参加者がなるべく全日参加できるよう、学校行事等を確認したうえで日程を決定した。	安全のために看護師確保と育成者の応急技術等の上達に努める。また参加率向上のために魅力的な講座内容を企画する。
②	荒工おもしろ体験教室においては、参加希望が多いコースの定員を増加できるか検討する。	荒工と協議し、現状での定員増は困難の結論を得た。次年度以降、より多くの参加者を受け入れられる実施内容を検討することとした。	実施内容及び定員増について荒工と協議する。（27年度については、会場工事の関係上、内容変更は不可）
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
推進	推進	子どもに多様な体験をさせる事業であり、優先度が高い。

況議 （要旨） 会質 問状	H26 11月会議 子どもの自然体験事業の充実について
------------------------	-----------------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-03	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	家庭教育の向上	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	池内
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-09-01	家庭教育の向上					
	01-09-02	地域の教育力向上					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成 39年度		根拠	親育ち支援事業実施要綱、地域教育力向上支援事業実施要綱・同補助金交付要綱等			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	II	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	11	家庭教育の推進				
目的	区民が青少年の健全育成の基盤となる家庭や家族の役割などを学ぶことにより、家庭の教育力を向上させる。						
対象者等	子育て中の親・保護者等						
内容	<p>[家庭教育学級] 家庭での子どものしつけや叱り方、ほめ方、能力の伸ばし方などについて、専門家による講義を実施（定員20～40名、乳幼児コース春・秋各5回、小中学生コース春5回）。 他、PTAと連携した家庭教育学級を実施</p> <p>[あらかわ「親育ち」支援事業] 子育てサークル等が行う子育てに関する自主的な学習活動に対し講師・託児謝礼を1グループ年2回まで助成</p> <p>[地域子育て教室] 地域で子育てをする環境を整備するため、子育て世代の交流等を目的として講座を実施（ふれあい館連携講座、地域の絆-ター養成講座、布のおもちゃ作り講座、パパスクール、食育講座等）</p> <p>[荒川区地域教育力向上支援事業（あらかわ子コミュニティ事業）] 地域の教育力向上を図るため、子ども達を核として家族や近隣住民が交流する事業に対して補助する</p>						
経過	<p>[家庭教育学級] 昭和39年度開始。平成13年度以降「明日の親コース」は保健所の事業に統合。必要に応じて小学校高学年・中学校コースを実施（20年度～小中学生コース）。23年度から乳児コース開始（25年度～乳幼児コース）</p> <p>[あらかわ「親育ち」支援事業] 平成7年度、「子育てひろば」として開始。平成20年度から事業名変更 [就学時健診時子育て講座（わかば教室）] 平成14～24年度、全小学校で実施。早寝早起き朝ごはん運動等で目的が達成されたため事業終了。</p> <p>[地域子育て教室] 平成17年度開始。20年度からふれあい館連携講座、布絵本（布おもちゃ）講座開始。 21年度から地域の子育てサポーター養成講座、平成23年度からあらかわパパスクールを開始。 [荒川区地域教育力向上支援事業]平成21年度開始。平成27年度、予算を4団体から6団体分へ増額。 ※平成26年度 地域文化スポーツ部生涯学習課の新設により、教育委員会の補助執行として実施。</p>						
必要性	少子化の進む社会環境の変化や、家庭教育力の低下など、子どもたちや子育て中の親をめぐり様々な問題が起きている。このような状況下、子どものしつけや叱り方、ほめ方、能力の伸ばし方など子どもへの対応を、親や保護者が学びあうことは、家庭教育の向上に役立てられるため必要性は高い。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
予算額	3,247	4,063	3,983	3,934	3,621	3,553	3,954	
①決算額（27年度は見込み）	2,900	2,851	2,691	2,875	2,331	2,609	3,954	
②人件費等	13,440	15,319	14,589	14,225	9,988	13,006		
③減価償却費		7,959	8,522	8,810	6,219	7,380		
【事務分担当量】（%）	270	274	274	273	184	227		
合計（①+②+③）	2,900	26,129	25,802	25,910	18,538	22,995	3,954	
特定財源	国							
	都		703	570				
	その他							
一般財源	2,900	25,426	25,232	25,910	18,538	22,995	3,954	
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	家庭教育学級（PTA連携除く）参加者／延	137/305	149/297	119/223	140/294	122/247	182/352	200/450
	「親育ち」支援事業（延団体数/参加者数）	65/2,449	55/3,382	51/2,625	44/1,835	37/1,720	40/2,118	50/2,500
	子コミュニティ事業支援団体数	4	4	5	5	8	8	7
地域子育て教室（サポーター含）延参加者数	320	484	264	224	119	236	250	

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師・託児謝礼	1,632	報償費	講師・託児謝礼	1,809	報償費	講師・託児謝礼	2,719
負担金補助・交付金	地域教育力向上支援補助	684	需用費	講師用飲物・消耗品	21	需用費	講師用飲物・消耗品	31
需用費	講師用飲物・消耗品	12	負担金補助等	地域教育力向上支援補助	778	使用料等	会場費等	4
使用料等	会場使用料	3				負担金補助等	地域教育力向上支援補助	1,200

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 参加率(家庭教育学級) (%)	72	62	88	90	90	参加者数/募集定員(延人数)
	② 実施団体数(あらかわ「親育ち」支援事業)	44	37	40	50	50	延団体数(1団体2回まで)
	③ 参加率(地域子育て教室) (%)	69	68	90	90	90	参加者数/募集定員(延人数)

問題点・課題 (指標分析)	① P T A 連携家庭教育学級に申し込む P T A が固定化している。
	② 親育ち支援事業で新規サークルからの申し込みがあまりない。
他区の実況	③ 乳幼児コースは、託児の申込み数が定員を超え対応できないために、参加を見合わせるケースが出てきている。また、託児対象外の1歳未満の乳児を同伴した受講者から託児の希望がある。
	④ 家庭教育学級については、ここ2年、定員を大幅に超える応募があり、希望者全員の受け入れができていない。
	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	家庭教育のPTA連携事業実施校を拡大するため、PTA総会や各単PTAなどへの周知を行い、実施校を増やす。	PTAだけでなく、各小中学校の校長・副校長に働きかけた結果、2校増えて7校での実施になった。	教育委員会の協力を得て、PTAとの連携をより深め、各単PTAの研修担当等まで事業の情報が届くよう周知していく。
②	新規サークルから、親育ち支援事業への相談があった際には、サークル立ち上げから団体規約、施設予約の方法等アドバイスを行う。	地域子育て教室の受講生がサークルを立ち上げ、親育ち支援事業を2回利用し、より保護者同士の交流を深める機会を提供できた。	26年度の検証を元に、新規サークルの開拓、立ち上げ支援を行っていく。
③	託児定員の増や託児年齢の見直し、乳幼児と同室でも受講可能な講座など、より参加しやすい講座を検討する。	保護者の関心に沿った講座の企画に努めた結果、子ども同室による受講希望者も増加し、延参加人数が100名以上増加した。	託児定員を増加するとともに、同室受講がしやすいように、なるべく生涯学習センター大会議室を会場とする。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
推進	推進	保護者に対して、子どもたちが基本的な生活習慣や他人への思いやりなどを身につけるための講座の実施は重要であり、引き続き推進する。

況 議 会 要 旨 問 状	H26年 6月会議 家庭教育講座の拡充について
---------------------------------	-------------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-04	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	青少年委員事務費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	森屋・渡辺
				内線	3352		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-05-01	青少年委員事務費					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		33年度	根拠	荒川区青少年委員設置要綱		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	青少年委員が地域の子ども会や青少年団体、PTAへの活動支援を行うことにより、子ども達の体験活動が充実するとともに、地域の結び付きを深め、青少年が健全に育つ環境を醸成する。						
対象者等	①地域の子どもたち ②地域の青少年関係団体（荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会、青少年育成地区委員会等） ③小・中学校PTA						
内容	<p>【委員数】現員40名 【報酬】月額8,250円 【身分】地方公務員法に定める特別職（非常勤職員） 【委嘱】青少年の余暇指導及び青少年団体の育成に直接携わり、かつ相当な実績をあげつつある者 【任期】2年間（6期まで再任可） 【対象者】区内在住・在勤者で委嘱時に満60歳未満の者</p> <p><荒川区青少年委員連絡会>・・・委員の自主組織（会長、副会長3名、会計2名、会計監査3名） 【専門部会】総務部会、調査研修部会、広報部会 【実践部会】少年団体育成部会、青年団体育成部会、校庭及び施設利用部会 【地域部会】南千住、荒川、町屋、尾久、日暮里の5ブロック…青少年育成地区委員会事業への協力等</p>						
経過	昭和28年度 東京都青少年委員制度設置（総数265名：各区市町村から約5名選出、1地域500名で1名） 昭和30年度 各小学校区から1名を推薦・委嘱（総数500名余、任期2年） 昭和33年度 東京都荒川区青少年委員の設置に関する規則制定 昭和39年度 地方自治法一部改正により、事務が各区市町村に移管 平成2年度 青少年委員40人体制となる 平成25年度 青少年委員制度60周年記念行事実施 平成27年度 青少年委員城北ブロック研修会を荒川区で開催（予定）						
必要性	青少年の余暇指導や地域・学校との連携等、青少年教育の振興に果たす役割は大きい。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		5,284	5,766	5,399	5,667	5,771	5,775
①決算額（27年度は見込み）		4,806	5,006	4,983	5,167	5,187	5,313	5,616
②人件費等		7,045	7,988	7,622	6,196	9,149	8,498	
③減価償却費			2,760	2,799	2,420	3,718	3,576	
【事務分担量】（%）		90	95	90	75	110	110	
合計（①+②+③）		11,851	15,754	15,404	13,783	18,054	17,387	5,616
特定財源	国	0	0	0	0	0		
	都	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0		
	一般財源	11,851	15,754	15,404	13,783	18,054	17,387	5,616
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	青少年委員連絡会の実施事業数	19	16	17	20	18	19	20
	青少年委員連絡会の協力事業数	32	34	34	30	30	34	30

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	委員報酬	3,952	報酬	委員報酬	3,952	報酬	委員報酬	3,960
需用費	賄・消耗品・印刷等	575	旅費	宿泊研修会旅費等	189	報償費	研修会講師謝礼等	62
旅費	宿泊研修会等旅費	190	需用費	賄・消耗品・印刷等	707	旅費	宿泊研修旅費	352
使用料等	宿泊研修会バス借上等	173	役務費	委員保険料等	74	需用費	賄・消耗品・印刷等	542
負担金補助等	都連合会分担金	129	使用料等	宿泊研修会バス借上げ等	204	役務費	委員保険料等	115
役務費	委員保険料等	114	負担金補助等	都連合会分担金	186	使用料等	宿泊研修会バス借上げ等	447
報償費	研修会講師謝礼	54				負担金補助等	都連合会分担金	138

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	青少年委員連絡会定例会への出席率（％）	71.1	76.6	84.1	80	80	出席者数／（定例会数*40名）
②	参加（関連）事業総数（事業）	50	48	53	50	50	主催及び協力事業数
③							

（問題点・課題分析）	①青少年の現状と各地域の特徴を踏まえた、事業のあり方の検討 ②主催事業と協力事業の整理 ③退任、委嘱における円滑な組織運営の実施
	（実施 19 区 未実施 3 区 不明 0 区） 平成26年度現在の委員数は、千代田22, 中央24, 港25, 文京26, 台東37, 墨田26, 江東46, 品川28, 目黒30, 大田61, *世田谷64, 渋谷31, 杉並40, 北64, 板橋56, 練馬65, *足立106, 葛飾73, 江戸川62 ※「*」は、東京青少年委員会連合会（都連）に未加入を示す。

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	委員の自主性を尊重しながらもグループワーカーとしての活動の規模や内容を考慮し、事業のあり方を検討する。	各地区ブロックが工夫を凝らした事業を実施しており、各委員が積極的に能力を活かして活動した。	26年度の対応を踏まえ、引き続きよりよい事業のあり方を検討する。
②	事業効果や必要性を検証し、他自治体の青少年委員活動等も参考に、主催事業及び協力事業の見直しを図る。	各地区ブロックが地域の実情に合わせた事業を確立しつつある。	26年度の取り組みを踏まえ、事業の見直し及び新たな事業展開を検討する。
③			特に任期の切り替え時において、円滑な組織運営を支援していく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	青少年の健全育成に寄与しており、継続して実施する。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-05	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	優良青少年団体・個人表彰	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	坂井
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-06-01	優良青少年団体、個人表彰					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		46年度	根拠	荒川区優良青少年団体・個人表彰実施要綱		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	青少年団体の健全育成と発展のため、特に優れている青少年団体及び団体活動に貢献してきた個人を表彰する。						
対象者等	1 日常活動が特に優れている少年団体及び青年団体 2 団体活動に貢献してきた個人						
内容	<p><実施方法></p> <p>1 荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会に表彰候補者の推薦を依頼 2 青少年委員連絡会の役員及び青少年育成部長により組織する審査委員会に諮問 3 審査会の答申を得て教育長が決定し、教育委員会が表彰する 4 子ども会大会、青年大会において表彰予定</p> <p><審査委員会></p> <p>青少年委員連絡会から8名（会長、副会長3名、会計2名、青年団体育成部長、少年団体育成部長）</p>						
経過	<p>・昭和40年 長谷川賞（初代 教育委員会教育委員・長谷川伊三郎氏が私財を投じて設置）が前身 ・昭和46年 教育委員会表彰となる ・平成26年度 組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課において、教育委員会事務の補助執行として実施</p>						
必要性	青少年団体とその団体活動に貢献してきた個人への表彰は、それまでの活動を賞賛するだけでなく、その後の活動にも多に励みになっている。 青少年団体の活動を活性化するきっかけとして、この表彰の意義は大きい。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		25	34	34	28	34	38
①決算額（27年度は見込み）		17	9	18	17	18	18	37
②人件費等		689	523	423	496	416	464	
③減価償却費			174	156	194	169	195	
【事務分担量】（%）		6	6	5	6	5	6	
合計（①+②+③）		706	706	597	707	603	677	37
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		706	706	597	707	603	677
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	受賞者数（個人・団体）	2	1	2	2	2	2	4

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	記念品・筒・審査会賄	11	需用費	記念品・筒・審査会賄	11	需用費	記念品・筒・審査会賄	21
役務費	表彰状筆耕	7	役務費	表彰状筆耕	7	役務費	表彰状筆耕	16

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 団体表彰	1	1	1	2	2	
	② 個人表彰	1	1	1	2	2	
	③						

（問題点・課題分析）	団体に所属して、継続的に地域活動をする青年が少なくなり、青年団体及び青年個人の新しい被候補者がいない状況にある。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	多くの団体及び個人が審査対象となるよう、地域活動に貢献している団体及び個人を把握するための情報収集を行い、表彰に努める。	多くの団体及び個人が審査対象となるよう、地域活動に貢献している団体及び個人を把握するため各団体にはたらきかけた。	様々な方面において、地域で活動する方の情報を収集し、推薦候補者の増加につなげる。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	青少年の健全育成のために貢献していただくための励み、活性化のきっかけとして必要である。

況議 （要旨） 会 質 問 状	
--------------------------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-06	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	青年団体リーダー研修会	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	鈴木 内線 3354
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）							
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 41年度		根拠				
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	区内の青年リーダーが、団体運営に必要な理論と実技を研修することにより、青年団体リーダーの資質を向上させると共に、青年団体活動の活性化につなげるようにする。						
対象者等	区内の青年団体のリーダー等						
内容	<p>区内の青年が、青年団体のリーダー等としての知識・資質を向上させ、自覚を持つきっかけとなるよう、区内の青年同士や他自治体の青年団体等と交流を図り、また資質・技術向上のための研修を行う。</p> <p>○平成23年度（平成24年3月21～22日、岩手県釜石市）は、成人の日のつどいの実行委員である青年の研修として、荒川区の友好交流都市であり、東日本大震災で甚大な被害を受けた釜石市を訪れた。被災地の現状を視察すると共に、「成人の日のつどい」で新成人が作成した「希望」の鶴文字のタペストリーを釜石市の青年に直接手渡し、荒川区と釜石市の青年の交流を図った。</p> <p>○平成24年度～25年度未実施 ○平成26年度（12月6～7日） 日本青年館で実施された研修に3名参加</p>						
経過	<p>【交流・研修場所等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成11年度 長野県富士見高原 ・平成12年度 埼玉県荒川村 ・平成13年度 福島県福島市 ・平成14年度 新潟県吉川町 ・平成15年度 群馬県上野村 ・平成16年度 未実施 ・平成17年度 群馬県草津町 ・平成18年度 未実施 ・平成19年度 福島県小野町 ・平成20年度 福井県福井市 ・平成21年度 静岡県静岡市 ・平成22年度 群馬県前橋市 ・平成23年度 岩手県釜石市（区内青年である成人の日のつどい実行委員の研修として実施） ・平成24年度～荒川区青年団体連合会の活動が厳しく、参加可能な青年リーダーの不足により未実施 ・平成26年度 青年団体連合会の自主活動として、実施（日本青年館で実施された研修に参加） 						
必要性	青年リーダー候補者が他自治体の青年活動を知り、活動活性化につなげるためのリーダー研修会の必要性は高い。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		440	479	880	0	0	0
①決算額（27年度は見込み）		229	222	528	0	0	0	0
②人件費等		1,303	1,657	3,439	826	0	0	
③減価償却費			552	1,368	323	0	0	
【事務分担量】（%）		13	19	44	10	0	0	
合計（①+②+③）		1,532	2,431	5,335	1,149	0	0	0
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		1,532	2,431	5,335	1,149	0	0
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	交流した自治体	静岡県静岡市	群馬県前橋市	釜石市	なし	なし	なし(研修会)	未定
	参加者数	9	13	14	0	0	3	5

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 研修会参加者数（人）	0	0	3	5	20	
	② 青年団体連合会の加盟団体数	5	5	5	5	7	自主事業や青年大会を通じて、声掛けをしていく
	③						

（問題点・課題分析）	①対象となる青年リーダーが加盟している荒川区青年団体連合会の活動実態に合わせ、より参加しやすい内容と実施方法を検討する必要がある。
	②青年団体連合会の会員のみを対象とせず、広く区内の青年リーダーの発掘や育成を目標とする新たな研修内容・方法を検討する必要がある。
他区の実況	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	荒青連による青年リーダーの育成を、自主事業（他自治体とのリーダー交歓会等）の支援を通して協力をする。	荒青連による自主事業について、PR等の協力を行った。	青年団体連合会と協力し、研修を実施する。
②	新たな青年リーダーを発掘するため、成人の日のつどい実行委員や区内各団体への声掛け、組織化を図る	成人の日のつどい実行委員に参加を呼びかけた結果、継続して数名の青年が参加した。	新たな青年リーダーが何を求めているか、企画から参加してもらい、より効果的な研修内容とする。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	青年団体連合会への加盟団体及び団体構成員の減少等により活動が縮小している現状を踏まえ、青年団体の新たな育成・支援策を検討すると共に、連合会以外の青年リーダーを発掘する。

況議 （要 旨） 問 状	H24予特 荒青連が活発化するような支援の実施について H25予特 青年団体の育成・支援の実施について H27年 2月会議 子ども・若者対策としての「若者の集い」の開催について
--------------------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-07	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	心身障がい者青年教室「さくら教室」	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	米山
							3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-07-01	心身障がい者青年教室					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 41年度		根拠	無し			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	区立中学校特別支援学級卒業生及び在住・在勤の心身障がい者が、継続的・計画的な講座を受講することにより、余暇活動を充実させるとともに、自主性・社会性・協調性を身につけることができるようにするため支援する。						
対象者等	区立中学校特別支援学級卒業生及び区内在住・在勤の心身障がい者。						
内容	知的障がい者の知識や技能の習得や余暇活動の充実、個性や特性を発揮する場の創設を目的に、教室を開催する。 【会場】荒川区立第一中学校他 【日時】年間17回、日曜日、午前9時15分～（半日または1日） 【内容】クラブ活動（パソコン・音楽・美術・調理・生花・スポーツ）、学級活動、校外学習 水泳・室内レク、城北ブロック合同レクリエーション大会、お楽しみ会、作品展 【協力】保護者、家族・手をつなぐ親の会・青少年委員・荒川区水泳連盟・障害者スポーツ指導員						
経過	昭和41年度 職業実習科卒業生を対象に開設（年22回） 昭和57年度 城北ブロック合同レクリエーション大会開始 平成14年度 作品展会場を区役所1階ロビーより町屋文化センターに変更 平成18年度 愛称名を「きょうようこうざ」から「さくら教室」に変更 平成22年度 スポーツクラブを新設、6クラブ体制に。 学級活動名称を毎年受講生の希望でつけるように変更（旧：全員スポーツ） 平成24年度 旧真土小が使用不可になったため、お楽しみ会の実施場所を生涯学習センターへ移行。 それに伴い、参加していた同時開催の手をつなぐ親の会の餅つき会も無くなった。 平成25年度 お楽しみ会で「クリスマス会」を開催した 平成26年度 組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課で、教育委員会事務の補助執行として実施 平成27年度 水泳レクにウォーキングを取り入れた。						
必要性	生涯学習の機会が少ない心身障がい者に対して、社会人として必要な自主性・社会性・協調性、教養を身につけることを支援する事業として必要である。 また、継続的に講座を行うことで、受講生どうしの交流を支援する事業としても必要である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） 常勤、非常勤の他、民間講師やボランティアによって運営されている。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		2,063	2,271	2,176	2,296	2,217	2,241
①決算額（27年度は見込み）		1,952	2,097	1,857	1,942	2,100	1,929	2,244
②人件費等		9,326	10,360	9,651	9,047	9,670	4,233	
③減価償却費			5,229	5,443	5,486	6,861	3,186	
【事務分担当量】（%）		170	180	175	170	203	98	
合計（①+②+③）		11,278	17,686	16,951	16,475	18,631	9,348	2,244
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		11,278	17,686	16,951	16,475	18,631	9,348
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	延べ参加受講生数（人）	1,018	1,058	1,135	1,076	1,074	1157	1228
	受講生数（人）	71	75	83	82	81	82	85

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼	1,683	報償費	講師謝礼	1,550	報償費	講師謝礼	1,775
使用料等	作品展会場付帯設備、バス借上げ等	262	旅費	職員旅費	1	需用費	消耗品等	106
需用費	消耗品費等	90	需用費	消耗品等	71	役務費	申込みハガキ	69
役務費	申込ハガキ等	65	役務費	申し込みハガキ	65	使用料等	校外学習バス借上げ等	294
旅費	職員旅費	0	使用料等	校外学習バス借上げ等	242			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 受講生(人)	82	81	82	85	85	
	② 平均参加率(%)	77.6	78.1	83.7	90	95	各回参加率平均
	③						

（問題点・課題 分析）	【受講生増加への対応】 21年度より、区内中学校特別支援学級に加え、王子・墨田・足立特別支援学校や区内知的障がい者関連施設等幅広く周知したところ、受講生が大幅に増加した。22年度はスポーツクラブを新設し、クラブ活動の選択肢を増やしたが、今後も引き続きプログラムの整備が必要である。
	【スタッフ不足・高齢化】 受講生の増加に伴い、従事するスタッフが不足している。また、スタッフの高齢化により、若い世代のスタッフの育成が急務である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	アンケートを実施し、受講生・保護者・スタッフのニーズを参考に、幅広い年齢層に対応できるようなプログラムを検討する。	アンケート結果をふまえ、水泳にウォーキングを取り入れるなどプログラムの工夫を行った。	より幅広い年齢層に対応できるようなプログラムを検討する。
②	新たなスタッフを育成すべく、体験ボランティアの受け入れを積極的に推進すると共に、体験終了者のスタッフ参加を促進する。	体験ボランティア3名を受け入れ、うち2名が27年度以降スタッフとして参加することとなった。	スタッフが柔軟に参加できるように、参加方法の見直しを行う。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	心身障がい者の自主性・社会性・協調性を養うため、継続して実施する。

況議 （要 会 質 問 状）	H24決特 知的障がい者が学び成長できる場の支援の充実について
-------------------------------	---------------------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-08	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	あらかわ青年大会	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	鈴木
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-06-02	あらかわ青年大会					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 38年度		根拠	荒川区補助金交付規則			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	青年活動等を活性化するために、青年たちが交流の場及び青年リーダーの育成の場として実施する「あらかわ青年大会」の事業実施を支援する。						
対象者等	あらかわ青年大会実行委員会（荒川区青年団体連合会加盟団体及び構成員が中心となって構成） ※大会参加（ステージ鑑賞など）は、区民一般						
内容	あらかわ青年大会実行委員会が、青年たちの交流や地域の活性化を目的として実施する事業に対して、事業費の全部または一部を補助する。 【実施内容】※平成23・24年度は未実施 ・平成20年度(10/24)…「路まつり」として、あらかわ遊園アリスの広場を主会場に、出演者、観客、スタッフが一体となって楽しめるプログラムを開催 ・平成21年度(10/25)…「路まつり」として、尾久小学校校庭及び熊野前商店街において、ソーランやアカペラ、カッポレ等を行った ・平成22年度(10/17)…「路まつり」として、尾久小学校校庭及び熊野前商店街において、ソーランやタップダンス、北豊島学園バトンクラブのパレード等を行った ・平成25～26年度(3月)…「アリストック」として、あらかわ遊園アリスの広場において、各種音楽団体等が演奏を行う野音祭を実施した。（27年度も実施予定）						
経過	平成17～20年度	「あらかわ路まつり」 会場：あらかわ遊園・アリスの広場					
	平成21・22年度	「あらかわ路まつり」 会場：尾久小及び熊野前商店街					
	平成23・24年度	未実施					
	平成25年度	「アリストック」 会場：あらかわ遊園・アリスの広場 ・荒青連加盟団体に限らず、区内等で活動している音楽団体による音楽祭形式で実施（9団体参加） ・成人の日のつどい実行委員経験者（実行委員アドバイザー）の団体（2団体）が、初めて青年大会に参加					
	平成26年度	平成25年度の参加者が実行委員として加わったほか、区内小学校（赤土小）や文化団体も出演するなど、地域と交流を深める大会となった。					
必要性	荒川区の青年たちが一同に会し、自分たちで企画するただ一つのイベントであり、青年間の交流が図れる貴重な機会のため、必要である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		950	950	950	950	950	950
①決算額（27年度は見込み）		950	950	0	0	950	950	950
②人件費等		1,954	2,494	0	0	1,248	2,549	
③減価償却費			930	0	0	507	1,073	
【事務分担量】（%）		24	32	0	0	15	33	
合計（①+②+③）		2,904	4,374	0	0	2,705	4,572	950
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		2,904	4,374	0	0	2,705	4,572
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	参加者数	1,000	1,500	0	0	700	700	700
	出演団体数	12	15	0	0	9	12	12

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950	負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950	負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 出演団体数	0	9	12	12	15	実施時間に応じた出演者数とする
	② 実行委員数	0	60	60	60	70	
	③						

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の核となる荒川青年団体連合会の活動を活性化させる必要がある。 ・広く区民一般に楽しんでもらうため、基本的に無料としており、必要経費については補助対象経費としているが、今後は一部自主的な運営ができるよう支援していく必要がある。
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	青年団体連合会が、実行委員会の核となって青年大会を実施できるよう、協力する。	荒青連が実行委員会の運営に専念できるよう、他事業に関わる青年に委員会への参加を呼びかけた結果、参加者が増加した。	平成26年に引き続き、新しく実行委員となってもらえるような青年の参加を促す。
②	実行委員の自主財源による事業の実施について、情報提供を行う。	実行委員会が協賛を呼びかけた結果、協賛金による自主財源が増加した。	平成26年に引き続き、一部自主財源で実施できるような方法を検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	青年の交流の場の提供及び新しい青年育成の場、また、区民が楽しめるイベントを実施する事業として、継続して実施する。

況議 （要 旨） 問 状	H24年予特 荒青連が活発化するような区の支援について H25年予特 青年団体の育成・支援について H27年 2月会議 子ども・若者対策としての「若者の集い」の開催について
--------------------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-09	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	成人の日のつどい	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	鈴木
							3354
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-06-03	成人の日のつどい					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 29年度		根拠	「成人の日の行事について」文部事務次官通達			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	(昭和31年12月10日)			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	成人に達した門出を祝福すると共に、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促す。また、実行委員となった新成人には、地域への愛着を強め、地域活動への関心を深めるきっかけとなるようにする。						
対象者等	<平成26年度>平成6年4月2日～平成7年4月1日生まれの方 <平成27年度>平成7年4月2日～平成8年4月1日生まれの方						
内容	平成26年度 平成27年1月12日（月・祝） 12:00～14:30 ◆第1部 記念式典：国歌斉唱、二峡小児童による合唱、主催者挨拶、成人の誓い、来賓祝辞、来賓紹介、主催者紹介 ◆第2部 ・恩師からのVTR上映 ・荒川クイズ（荒川を知ってもらうためのクイズを会場全体で実施） ◆第3部 ミニパーティー、書き損じハガキ回収、20歳のメモリアルボード（メッセージボード） ○会場 第1・2部：大ホール 第3部：小ホール、第1～7集会室 平成27年度 平成28年1月11日（月・祝） 11時30分～14時 サンパール荒川の改修工事により、日暮里ラングウッドホールで開催 （ミニパーティはサニーホールで実施予定）						
経過	昭和55年度 「成人の日のつどい実行委員会（企画・運営スタッフ会）」を新成人を募り設置。参加者自身の手で作りに上げる方式を採用。区報で募集のほか、中学校等より推薦のあった新成人で構成。記念品の選定や、案内ハガキのデザイン、2部・3部の企画、運営を担当。 平成22年度 司会を実行委員ではなくセミプロに依頼し、また入場方法についても工夫した結果、式典の厳粛な実施が可能になった。なお、2部・3部については、実行委員による運営を実施。 平成23年度 成人式を終えた実行委員に「アドバイザー」として次年度以降の実行委員会に参加を促した。 平成27年度 サンパール荒川の大規模改修に伴い、会場を変更をなるため、式典開始時間を例年より30分早め、11:30式典開始の予定である。						
必要性	新成人の門出を祝福するとともに、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促すために必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） <平成26年度> 主催：荒川区・荒川区教育委員会・荒川区選挙管理委員会 協力：新成人実行委員13名・アドバイザー5名、青少年委員36名他						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
予算額	3,204	3,257	3,029	3,093	2,973	2,856	3,898	
①決算額（27年度は見込み）	2,318	2,711	1,620	2,364	2,374	2,433	3,898	
②人件費等	3,665	5,808	4,764	3,840	4,224	3,534		
③減価償却費		2,527	2,489	2,259	2,400	1,788		
【事務分担当量】（%）	45	87	80	70	71	55		
合計（①+②+③）	5,983	11,046	8,873	8,463	8,998	7,755	3,898	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	5,983	11,046	8,873	8,463	8,998	7,755	3,898	
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	対象者（人）	1,758	1,813	1,811	1,687	1,735	1879	1596(見込み)
	参加者（人）	916	960	972	860	888	935	892
	参加率（%）	52.1	53	54	51	51	50	55.9
	記念品	セラミックボールペン	フォトフレーム	オリジナルタンブラー	シースルーアラームクロック	ステンレスマグカップ	木製ボールペン・シャーペン	未定

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	謝礼	46	報償費	謝礼	46	報償費	謝礼	144
需用費	記念品等	2,016	需用費	記念品等	2,068	需用費	記念品等	2,318
役務費	吊看板・立看板	95	役務費	吊看板・立看板	98	役務費	吊看板・立看板	110
使用料等	会場使用料等	217	使用料等	会場使用料等	221	委託料	会場設営委託費	295
						使用料等	会場使用料等	1,031

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 式典参加率（％）	51	51	50	55.9	60	参加数／対象者数
	② 公募数／実行委員数	2／18	5／14	3／13	5／15	8／15	
	③ 実行委員会参加率	67	67	75	80	100	参加延べ数／実行委員数*回数

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・成人の日のつどいへの参加率は50%程度で推移しているが、さらに多くの新成人に参加してもらえるよう、周知及び内容の充実を図る必要がある。 ・成人の日のつどい実行委員については、区報・HP等による公募委員が増加してきているが、学校推薦の委員が多数である。より積極的な参加意志を持つ委員に多く参加してもらうために、公募方法等の改善を図る。 ・サンパール荒川の大規模改修に伴う会場変更について、円滑に実施ができるよう早急に検討する。
	他区の実況 （実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 【25年度参加率（％）】千代田82、中央69、港53、新宿39、文京61、台東56、墨田59、江東69、品川55、目黒55、大田59、世田谷68、渋谷47、中野49、杉並48、豊島46、北54、板橋55、練馬67、足立60、葛飾62、江戸川59【記念品無】12区【実行委員会形式】14区

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	実施内容だけでなく、参加率を上げるためのPR方法等についても、実行委員、アドバイザー等の意見を聞きながら検討していく。	アドバイザーの交流会を行い、意見交換を行った。次年度以降も、積極的に意見交換を行い、具体的にPR方法を検討していく。	平成26年度の検討内容を踏まえ、より参加率が上がるよう改善していく。
②	公募の実行委員が増えるよう、アドバイザー等にも意見を聞きながら、積極的な参加を推進する。	アドバイザーの交流会を実施し、後輩等の推薦について依頼した。	公募等が増えるようより工夫すると共に、アドバイザーに対し、成人の日のつどい終了後も地域活動への参加を促進する。
③	平成27年度サンパール荒川の大規模改修に伴い、会場変更等、実施方法について検討する。	日暮里ラングウッドとサニーホールを候補会場とした。 当日の受付方法、経路を検討する。	当日の受付方法、経路を検討し、スムーズな進行ができるよう努める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	成人を祝うとともに、成人としての権利と義務、責任・自覚を促す事業として継続して実施する。

況 議 会 （ 要 旨 ） 問 状	H18決特 二部のパーティー内容の充実について H23予特 荒川公園など屋外での実施の可能性について
---	---

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-10	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	吹奏楽コンサート	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	坂井
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-06-04	吹奏楽コンサート					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		52年度	根拠	無し		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	区内の小・中・高校等の吹奏楽部や、卒業後も活動を続けている青少年に、日頃の練習成果の発表の場提供するとともに、区民が身近で音楽文化に触れる機会を提供する。						
対象者等	青少年及び一般区民						
内容	○平成26年度 1 主催 吹奏楽のつどい実行委員会・荒川区 2 実施日 27年3月22日（日） 3 場所 サンパール荒川（大ホール） 4 参加団体 11団体 ① 社会人団体：4団体 ② 高等専門学校：1団体 ③ 高等学校吹奏楽部：1団体 ④ 中学校吹奏楽部：2団体 ⑤ 小学校金管バンド：3団体						
経過	昭和56年度（第1回）～「荒川区民における吹奏楽の夕べ」自主事業として実施 3団体参加 昭和60年度～教育委員会の主催で「荒川区民における吹奏楽の夕べ」を実施 6団体参加 平成6年度～教育委員会と荒川区に吹奏楽を育てる会主催で実施 14団体参加 平成19年度「吹奏楽のつどい実行委員会」の主催となる 平成22年度 東日本大震災のため中止 平成27年度 サンパール荒川の大規模改修のため、会場を日暮里サニーホールに変更それに伴い2団体（峡田小・尾久六小）が出場を辞退（平成27年度のみ）						
必要性	区内の吹奏楽団体に交流・成果発表の機会を提供することにより、荒川区の文化向上を図ることができると、必要な事業である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		618	618	609	598	598	610
①決算額（27年度は見込み）		483	16	453	447	455	461	587
②人件費等		896	960	932	909	832	232	
③減価償却費			320	342	355	338	98	
【事務分担量】（%）		11	11	11	11	10	3	
合計（①+②+③）		1,379	1,296	1,727	1,711	1,625	791	587
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源	1,379	1,296	1,727	1,711	1,625	791	587
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	出演団体数	10	0	10	11	11	11	9
	入場者数	1,000	0	945	900	830	880	800

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
使用料等	会場費・トラック	378	需用費	ポスター等	13	需用費	ポスター等	19
委託料	照明	61	委託料	照明等	63	委託料	照明等	67
需用費	ポスター	16	使用料等	会場費・トラック	386	使用料等	会場費・トラック	501

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 出演団体数	11	11	11	9	12	
	② 来場者数	900	830	880	800	1,000	27年度は2校が会場変更により出演しないため、来場者減少見込
	③						

（問題点・課題分析）	来場者が音楽文化に親しむことができるよう、「吹奏楽のつどい」のプログラムや内容等の充実を図ると共に、より様々な年代の参加団体を増やしていくことが必要である。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	実行委員会による運営がより効率的に行われるよう、会場運営やPRについて助言や支援をする。	実行委員会による運営がより効率的に行われるよう、会場運営やPRについて助言や支援を行った。	実行委員会による運営が一層効率的に行われるよう、積極的に助言や支援をする。
②	参加団体が増えるよう、各学校や団体に声かけをしていくと共に、団体がより参加しやすいような実施日程・会場なども検討する。	参加団体が増えるように、各学校や団体に声かけを行った。	26年度に検討した内容を踏まえて対応する。
③	平成27年度サンパール荒川の大規模改修に伴い、会場変更等、確実な準備をしておく。	平成27年度は日暮里サニーホールを使用するので、施設予約及び団体との調整を行った。	団体と調整を行いながら、不備のないよう準備を進めていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	青少年が交流しながら、音楽活動の成果を発表する場、および区民が音楽文化に触れることのできる場として、継続して実施する。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-12	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	荒川区文化祭	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	坂井
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-10-01	文化祭					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 27年度		根拠	無し			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	区民が日頃研鑽を重ねている様々な文化活動の成果を、広く区民に発表する場を提供すると共に、更なる活動意欲の向上、文化の向上を図る。						
対象者等	各団体会員と区民一般						
内容	<p>各団体（平成26年度は21団体）が、文化の日を中心に大会、展示会を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本舞踊大会（荒川区日本舞踊連盟） ○写真展（全荒川写真連盟） ○謡曲大会〈観世流・宝生流〉（荒川区謡曲連盟） ○俳句大会・展示会（荒川区俳句連盟） ○民謡大会（荒川区民謡協会） ○詩吟と剣舞の大会（荒川区吟剣詩舞道連盟） ○ソーシャルダンス大会（荒川区ソーシャルダンス連盟） ○美術展（荒川区美術連盟） ○邦楽大会（荒川区邦楽連盟） ○歌謡大会（荒川区歌謡協会） ○区民音楽会（荒川区音楽連盟） ○民踊大会（荒川区民踊連盟） ○華道展・茶席（荒川区華道茶道文化会） ○囲碁大会（荒川区囲碁連盟） ○菊花展（荒川菊花会） ○盆栽展（荒川盆栽山野草会） ○書道展（荒川区書道連盟） ○大太鼓盆踊り大会（荒川区大太鼓連盟） ○バレエコンサート（荒川区洋舞連盟） ○さつき紅葉実物展（荒川区皐月会） ○盤景展（荒川盤景会） 						
経過	<p>平成元年度 21団体参加</p> <p>平成13年度 22団体参加 荒川区歌謡協会加盟</p> <p>平成15年度 23団体参加 荒川区皐月会加盟</p> <p>平成17年度 22団体参加 荒川区美術刀剣連盟退会（17年5月）</p> <p>平成23年度 荒川区文化祭60周年記念行事（式典・子ども向け事業）実施</p> <p>平成26年度 21団体参加 荒川史談会退会（26年5月）</p> <p>平成27年度 22団体参加予定 将棋協会加盟（27年5月）</p>						
必要性	会員及び一般区民が日頃から取り組んでいる文化活動の成果を発表することにより、活動をさらに充実させる機会となっているため、必要である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 主催：荒川区・荒川区文化団体連盟 主管：連盟加盟各団体						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
予算額	6,414	6,536	7,129	6,294	6,029	6,146	5,983	
①決算額（27年度は見込み）	5,753	5,665	6,514	5,398	5,446	5,477	5,983	
②人件費等	6,108	6,645	6,455	6,444	7,319	5,639		
③減価償却費		2,411	2,581	2,840	2,974	2,373		
【事務分担当量】（%）	75	83	83	88	88	73		
合計（①+②+③）	11,861	14,721	15,550	14,682	15,739	13,489	5,983	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	11,861	14,721	15,550	14,682	15,739	13,489	5,983	
実績の推移	事項名							
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
出演・参加者数	2,544	2,246	2,621	2,460	2,657	1,913	2,000	
出品者数	823	956	2,105	1,684	1,550	1,678	1,700	
参観者数	17,319	16,484	16,307	13,987	15,589	16,573	25,000	

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
使用料等	会場使用料等	3,345	報償費	講師謝礼	212	報償費	講師謝礼	276
委託料	会場設営委託	947	需用費	プログラム等	561	需用費	プログラム等	686
需用費	プログラム等	546	役務費	筆耕料・保険料等	348	役務費	筆耕料・保険料等	423
役務費	筆耕料・保険料等	355	委託料	会場設営委託	969	委託料	会場設営委託	1,002
報償費	講師謝礼	253	使用料等	会場使用料等	3,387	使用料等	会場使用料等	3,596

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 参加者・観覧者数	18,131	15,589	16,573	25,000	25,000	
	② 大会&展示会数	24	24	22	23	25	26年度 史談会・俳句大会未実施 27年度 将棋協会参加見込
	③						

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> 参加者や観覧者が固定化する傾向にあるので、広く区民に周知する必要がある。 団体構成員の高齢化が進んでいるため、新しい人材を積極的に取り込み、各団体の活性化を図る必要がある。
	他区の実況 （実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 区の主催・後援による文化発表会を含む

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	参加者・観覧者を増やすため、チラシの配布場所やホームページの活用等周知方法を工夫する。	参加者・観覧者を増やすため、区ホームページや区営掲示板、都電ポスターなどを活用し、周知を行った。	文化団体と協議しながら、より効果的な周知方法を検討する。
②	伝統文化子ども教室や文化総合講座に参加している子どもの作品の展示を積極的に実施する。	文化祭の中で、伝統文化子ども教室の参加者の作品展示の実施ができた。	26年度の改善内容を踏まえ、文化活動に関心を持つ子ども・保護者への、より積極的な働きかけを行う。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	区民の文化向上のために、寄与している。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-13	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	文化団体連盟補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	坂井
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-10-02	文化団体連盟補助					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 39年度		根拠	荒川区補助金交付規則			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区文化団体補助金交付要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	区民の文化向上のために実施する事業を奨励し、文化活動の中心的な役割を果たしている文化団体を統括する団体（荒川区文化団体連盟）に対し支援する。						
対象者等	荒川区文化団体連盟 加盟団体（22団体）						
内容	目的を達成するため、次の事業に対し補助金を交付する。 （1）加盟各文化団体相互の親睦と情報の交換 （2）文化祭等、行事への参加または協力 （3）その他、目的達成のために必要な事業 【加盟団体】21団体（平成26年度） ○荒川区日本舞踊連盟 ○荒川区音楽連盟 ○全荒川写真連盟○荒川区民踊連盟○荒川区謡曲連盟 ○荒川区華道茶道文化会○荒川区俳句連盟 ○荒川区囲碁連盟○荒川区民謡協会○荒川菊花会 ○荒川区吟剣詩舞道連盟○荒川盆栽山野草会○荒川盤景会 ○荒川区ソーシャルダンス連盟 ○荒川区歌謡協会 ○荒川区皐月会 ※平成27年度 将棋協会加盟						
経過	平成元年度 21団体加盟 平成13年度 22団体加盟 荒川区歌謡協会 加盟 平成15年度 23団体加盟 荒川区皐月会 加盟 平成17年度 22団体加盟 荒川区美術刀剣連盟 脱退 平成26年度 21団体加盟 荒川史談会 脱退 平成27年度 22団体加盟 将棋協会 平成27年5月総会にて加盟						
必要性	会員及び一般区民が日頃から取り組んでいる文化活動を支援し、充実させることにより区全体の文化史振興を図るため必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980
①決算額（27年度は見込み）		1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,890	1,980
②人件費等		932	960	932	909	832	2,318	
③減価償却費			320	342	355	338	975	
【事務分担量】（%）		11	11	11	11	10	30	
合計（①+②+③）		2,912	3,260	3,254	3,244	3,150	5,183	1,980
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
一般財源		2,912	3,260	3,254	3,244	3,150	5,183	1,980
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	団体数	22	22	22	22	22	21	22

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	文化振興補助金	1,980	負担金補助等	文化振興補助金	1,890	負担金補助等	文化振興補助金	1,980

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 連盟加盟団体数	22	22	21	22	22	26年度 史談会脱退 27年度 将棋協会加盟
	②						
	③						

（問題点・課題 指標分析）	団体役員及び所属会員が高齢化しているため、積極的に新会員の加入促進を図る必要がある。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 文化財団等への補助及び事業補助を含む

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	各文化団体の実施事業について区民に周知し、文化活動の魅力を伝えられるよう協力する。	区のホームページや区報などを活用し、各文化団体の文化活動の周知を行った。	文化団体をPRするホームページの新規ページを作成するなど、会員の加入促進につながるよう協力し、団体の活性化を図る。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	文化団体を支援することにより、区民の文化の向上に寄与することができている。

況 議 （ 要 旨 ） 問 状	
--------------------------------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-14	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事									
事務事業名	文化講座補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	坂井									
							3355									
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-10-03	文化講座														
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業										
開始年度	○昭和 ●平成		元年度	根拠	荒川区補助金交付規則、荒川区町屋文化センター文化講座補助金交付要綱											
終期設定	○有 ●無		年度	法令等												
実施基準	○法令基準内		○都基準内		●区独自基準		計画区分									
					○計画		●非計画									
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市														
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成														
	施策	12 生涯学習活動の支援														
目的	区民が安価で参加できる講座を安定して実施するため、荒川区文化団体連盟主催する文化講座に対し支援する。															
対象者等	文化団体連盟															
内容	<p>【内容】文化団体連盟の自主事業である文化総合講座に対して補助する。</p> <p>【会場】町屋文化センター</p> <p>【実施方法】4月期、7月期、10月期、1月期の3ヵ月を単位として受講生を募集する。</p> <p>【補助対象経費（平成25年度実績）】 会場使用料、チラシ印刷、チラシ折込、受講証印刷、文化総合講座学習成果発表会、ポスター印刷</p> <p>【主な講座】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>ジュニアアート 37/160</td> <td>囲碁 162/160</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土曜歌謡 127/120</td> <td>童謡を歌う会 46/120</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水彩画 114/128</td> <td>実用文字A 88/120</td> <td style="text-align: right;">〔受講者（人）／定員（人）〕</td> </tr> </table>							ジュニアアート 37/160	囲碁 162/160		土曜歌謡 127/120	童謡を歌う会 46/120		水彩画 114/128	実用文字A 88/120	〔受講者（人）／定員（人）〕
ジュニアアート 37/160	囲碁 162/160															
土曜歌謡 127/120	童謡を歌う会 46/120															
水彩画 114/128	実用文字A 88/120	〔受講者（人）／定員（人）〕														
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年1月～3月まで、町屋文化センター開設に合わせて開講。当初は、講師が教室運営を行った。 ・平成元年4月～ 運営委員会を組織し、教室運営を行った。 ・平成13年度 会場使用料を全額補助から半額補助に変更。それに伴い、受講料を100円値上げした。 ・平成14年度 ジュニア向け講座として7月より囲碁、10月より書道・美術を開講 ・平成19年度 区制75周年に伴い、子ども・高齢者対象の事業やボランティア活動を実施している団体への支援を行った。 ・平成22年度 震災により学習発表会を中止 ・平成23年度 震災の影響により5月まで夜間講座を休止 ・平成26年度 ギター・声楽講座などを廃止し、合唱・ピアノ講座を新設 ・平成27年度 ソシアルダンス講座を新設 															
必要性	連盟の主催する各講座は、地域の人材を活用し、区民に様々な生涯学習の機会を与えるとともに、日本の伝統文化の継承を担っており、その必要性は年々高まってきている。															
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 文化団体連盟による運営委員会方式 運営委員長：松田全代（荒川区邦楽連盟）（H24.5就任） 運営委員数：4名（委員長1名、会計2名、書記1名）															

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353
①決算額（27年度は見込み）		3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353
②人件費等		896	969	932	909	832	773	
③減価償却費			320	342	355	338	325	
【事務分担当量】（%）		11	11	11	11	10	10	
合計（①+②+③）		4,249	4,642	4,627	4,617	4,523	4,451	3,353
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		4,249	4,642	4,627	4,617	4,523	4,451
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	講座数	28	29	29	29	29	29	30
	受講者数	2,093	2,154	1,927	1,927	1,945	2,120	2,268

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	文化総合講座補助	3,353	負担金補助等	文化総合講座補助	3,353	負担金補助等	文化総合講座補助	3,353

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 受講率（%）	59	59	55	70	70	受講生／定員
	② ジュニア向け講座受講率（%）	36	36.5	35	70	70	受講生／定員
	③						

問題点・課題 （指標分析）	定員に達していない講座があり、日本の伝統的文化の継承の意義とコストから、実施内容を検討していく必要がある。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	参加者数の増と伝統文化の継承のため、ジュニア講座を強化し、子どもの参加者を増やす。	ジュニア講座の取組みを強化し、受賞作品を区ホームページで掲載するなどの取組みを行った。	26年度の改善内容を踏まえ、子どもの参加者を増やすとともに伝統文化の継承を図っていく。
②	受講率を増加させるため、実施内容の検討について団体にアドバイスしていく。	実施内容を検討し、講座の内容が一部変更された。	文化の継承を図りながらも、より区民のニーズに沿った講座が開設されるよう団体と協議を行っていく。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	多様な区民の文化向上のための講座を実施している。

況 議 （ 要 旨 ） 問 状	
--------------------------------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-15	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	女性団体補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	安藤
							内線
							3352
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-11-01	女性団体補助					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 39年度		根拠	荒川区補助金等交付規則			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	女性団体が行う生涯学習関係事業を奨励し、団体の育成と地域活動を活発化するための支援を行う。						
対象者等	女性団体						
内容	荒川区女性団体の会加盟団体のうち5団体の活動に対して補助を行う <補助団体> 平成27年3月現在 (団体名) (代表者) (会員数) 三河島母の会 小沢 よし子 100名 尾久母の会 阿久津 敬子 380名 日暮里母の会 上村 詳子 65名 荒川区婦人学級連絡会 大久保 幸子 10名 荒川区更生保護女性会 遠田 茂子 672名						
経過	<補助団体数> 平成12年度～ 6団体（○荒川区女性団体の会が文化青少年課へ移管された） 平成16年度～ 6団体（○荒川区更生保護婦人会が荒川区更生保護女性会に団体名変更） 平成23年度～ 5団体（○南千住母の会が休会）						
必要性	女性団体の行う地域事業は、地域の交流を深め、また生涯学習の発展につながっている。そのため、今後とも女性団体の活動の支援が必要である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		600	600	500	500	500	500
①決算額（27年度は見込み）		600	600	500	500	500	500	500
②人件費等		162	174	306	301	224	291	
③減価償却費			58	218	226	135	163	
【事務分担量】（%）		2	2	7	7	4	5	
合計（①+②+③）		762	832	1,024	1,027	859	954	500
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
一般財源		762	832	1,024	1,027	859	954	500
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	補助団体数	6	6	5	5	5	5	5

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	女性団体補助金	500	負担金補助等	女性団体補助金	500	負担金補助等	女性団体補助金	500

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 補助団体数	5	5	5	5	6	
	②						
	③						

問題点・課題 (指標分析)	会員の高齢化が進んでいるため、若年層の加入促進が必要である。
	（実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区） 千代田区、港区が団体補助または事業補助を実施。

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	家庭教育講座への協力等において、子育て世代等の若年層との交流を深める機会をつくる。	家庭教育講座をはじめとする子育て世代等の若年層と交流を行い、地域における生涯学習の推進に寄与した。	平成26年度の取り組みを踏まえ、活動に対し指導助言を行う。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	地域活動や生涯学習の推進に寄与しており、事業を継続する。

況 (要旨)	議 会 質 問 状
-----------	-----------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-16	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	青年団体連合会補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	鈴木
	01-11-02	青年団体連合会補助	内線	3354			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-11-02 青年団体連合会補助						
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		48年度	根拠	荒川区補助金交付金規則		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱		
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	青年団体が行う社会教育関係事業を奨励し、団体の健全な育成のために、自主的な団体活動を支援する。						
対象者等	荒川区青年団体連合会						
内容	青年団体の連合体である荒川区青年団体連合会の活動に対し、補助する。 ○青年団体連合会加盟団体 5団体 ・ふるさと荒川ふれあい広場 ・ユースブンタクローズクラブ ・荒川区商連青年部 ・M u - k y o c a ・D r e a m s あらかわバンド会 ○活動状況（22～23年度 活動なし） ・24年度 総会、スポーツ大会（フットサル大会）、忘年スポーツ大会（ボウリング）等 ・25年度 総会、スポーツ大会（フットサル大会）、あらかわ青年大会等 ・26年度 総会、スポーツ大会、あらかわ青年大会等						
経過	昭和43年度 荒川区青年団体連合会結成（40団体・400人参加） 都内で8番目の青年団体連合体 平成10年度 結成30周年記念事業として「フレンドシップ神津島」を実施 平成20年度 結成40周年を迎えた 平成23・24年度 団体活動の継続が難しくなり、「あらかわ青年大会」を実施見合わせ 平成25年度 「あらかわ青年大会」復活（詳細は「あらかわ青年大会」のシートを参照）						
必要性	荒川区青年団体連合会は、加盟団体数は減少しているものの、都内唯一の青年団体連合会である。今後、自主財源を安定して確保できるようになるまで、青年団体活動を活性化していくためにも、補助は必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		257	257	257	257	257	257
①決算額（27年度は見込み）		257	257	0	181	257	257	257
②人件費等		895	960	169	909	3,327	232	
③減価償却費			320	62	355	1,352	98	
【事務分担量】（%）		11	11	2	11	40	3	
合計（①+②+③）		1,152	1,537	231	1,445	4,936	587	257
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源	1,152	1,537	231	1,445	4,936	587	257
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	加盟団体数	10	10	10	5	5	5	5

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	青年団体連合会補助金	257	負担金補助等	青年団体連合会補助金	257	負担金補助等	青年団体連合会補助金	257

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 加盟団体数	5	5	5	5	7	自主事業及び青年大会等で新規団体への声掛けしていく
	②						
	③						

問題点・課題 (指標分析)	・余暇活動やライフスタイルの多様化などにより、青年が団体に活動することが少なくなり、荒川区青年団体連合会に加盟する団体が減少しているため、活発な活動がされていない。						
	他区の実況 (実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)						

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	区内の青年個人(成人の日のつどい実行委員・大学生等)やグループに、イベント等を通じて団体活動の魅力を伝え、加入促進を図る。	成人の日のつどい実行委員に声掛けをした結果、数名がイベント等の際に参加した。	平成26年度に引き続き、団体活動をしていない青年層を発掘し、加盟団体等を増やす。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	青年団体連合会を支援することにより、青年による地域活動の発展に寄与することができる。

議会 要旨 質問状	H24年予特 荒青連が活発化するような区の支援について H25年予特 青年団体の育成・支援について H27年 2月会議 子ども・若者対策としての「若者の集い」の開催について
-----------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-17	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	少年団体指導者連絡会補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	鈴木
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-11-03	少年団体指導者連絡会補助					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 48年度		根拠	荒川区補助金等交付規則			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	少年団体指導者連絡会へ支援を行うことにより、少年を対象にした事業の安定的な実施と、少年団体の健全な育成を図る						
対象者等	荒川区少年団体指導者連絡会						
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・補助団体 荒川区少年団体指導者連絡会（以下「荒少連」） ・加盟団体 13団体 <ul style="list-style-type: none"> ○南千住一丁目東町会子ども会 ○南千協和子ども会 ○荒川交通少年団 ○南千住六丁目日本町会青少年部 ○銀成町会青少年部 ○西尾久中町会青少年部 ○レインボー子ども会 ○ウエスタンエイト子ども会 ○尾久地区青少年団体連合会 ○ユーセブン・タクローズクラブ・タクローズ子ども会 ○尾久母の会子ども会 ○尾久交通少年団 ○南千住中央町会 ・特別団体会員 4団体 <ul style="list-style-type: none"> ○リバーパーク汐入町会 ○天王太鼓つくも会 ○南千住協和会 ○十久日会 ・個人会員 130名 ・シニアリーダー 13名 						
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和40年 荒川区少年団体指導者連絡会設立 ・平成17年2月 荒川区少年団体指導者連絡会40周年記念式典・祝賀会開催 ・平成22年3月 荒川区少年団体指導者連絡会45周年記念式典・祝賀会開催 ・平成26年 荒川区少年団体指導者連絡会50周年記念事業実施（8月大島キャンプ、2月祝賀会） 						
必要性	異年齢集団の仲間や友達と過ごすことが少なく、体験の不足などにより集団行動が苦手な子どもが増えている中、子どもが様々な体験をし、協調性を養う機会を増やすために、子ども会組織の健全な育成が必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
予算額	300	300	300	300	300	300	300	
①決算額（27年度は見込み）	300	300	300	300	300	300	300	
②人件費等	895	960	932	909	850	830		
③減価償却費		320	342	355	676	650		
【事務分担量】（%）	11	11	11	11	20	20		
合計（①+②+③）	1,195	1,580	1,574	1,564	1,826	1,780	300	
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源	1,195	1,580	1,574	1,564	1,826	1,780	300
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	加盟団体	21	21	20	20	20	16	17
	個人会員	156	160	131	126	125	124	130

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	荒少連補助金	300	負担金補助等	荒少連補助金	300	負担金補助等	荒少連補助金	300

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 加盟団体数（団体）	20	20	16	17	22	
	② 個人会員数（名）	126	125	124	130	150	
	③ シニアリーダー数（名）	22	19	12	13	30	

（問題点・課題分析）	補助団体である荒少連は、子どもの体験活動等に広い知識と実績を持つ育成者の団体であるが、近年、地域で子どもを育てるという意識が薄れている現状から、加盟団体及び個人会員数が年々減少している。子ども達が安全な体験活動を実施するためには、育成者である会員数が充実するよう、加盟対象となる団体の発掘・声掛け及び区民に対して団体活動などをPRする支援が必要である。
	（実施 8 区 未実施 14 区 不明 0 区） 東京都子ども会連合会加盟団体数(27年度) 加盟せず、「協議会」という形で活動している区もあり

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	子ども会大会や加盟団体交流会等の行事を行うことにより、団体間の交流を図り、子ども会の維持や充実につながるよう支援する。	自主活動について、会場確保などの支援を行ったほか、チラシ配布等の支援を行ない、団体活動のPRの一端を担った。	少年育成活動を行う団体についての情報収集を行うと共に、団体の魅力をPRし、加盟団体・個人の増加につなげる。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	子ども体験活動を支えている団体へ支援することにより、青少年の健全育成に寄与することができている。

況議 （要 旨） 問 状	H26年11月会議 自然体験の充実について
--------------------------	-----------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-18	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	人権教育推進費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	萩原 内線 3359
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-12-01	人権教育推進費					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 48年 年度		根拠	人権教育及び人権啓発の推進に関する法			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区人権推進指針			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	II	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	区民が人権問題についての学習機会を得ることにより、基本的人権を尊重することの大切さを正しく理解すると共に、気づきから実際の態度や行動につながることを目的とする。						
対象者等	区民一般						
内容	平成26年度 「見えない世界の子どものを守る～ネットトラブルの現状とその対応」 ①小学生保護者向け 23名参加 ②中学生保護者向け 13名参加 講師：東京都青少年対策本部ファミリールール						
経過	平成9年度まで 部落解放同盟荒川支部（以下「支部」と略す）に対して補助金を交付 平成10年度 一部の事業について支部と共催。 平成13年度 サマーキャンプと女性交流研修を廃止。 平成14年度 デイキャンプ、地域交流教室（子ども会）、青年スポーツ交流会、地域交流教室を一般施策化 平成22～25年度 「子どもの人権」をテーマに、「みんなで人権を考える講座『CAPワークショップ』」を各地区1回、4年で全地区で開催した。 平成22年度南千住地区、平成23年度日暮里地区、平成24年度尾久地区、平成25年度峡田地区						
必要性	すべての人々の人権が尊重される社会の実現のために必要である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
予算額	104	104	98	98	98	98	98	
①決算額（27年度は見込み）	43	70	68	74	70	0	98	
②人件費等	244	923	1,204	1,180	1,447	618		
③減価償却費		465	654	678	1,690	260		
【事務分担量】（%）	10	16	21	21	50	8		
合計（①+②+③）	287	1,458	1,926	1,932	3,207	878	98	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	287	1,458	1,926	1,932	3,207	878	98	
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
講座（数）		2	1	1	1	1	2	1
参加者数		60	45	60	44	50	36	50

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師・託児謝礼	70	報償費	講師謝礼	0	報償費	講師・託児謝礼	90
需用費	講座用消耗品費	0	需用費	講座用消耗品	0	需用費	講座用消耗品	8

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 講座の参加者数	44	50	36	50	60	
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	生活の中で身近な、高齢者・外国人・障がい・性・ワークライフバランス・児童虐待・いじめ・命等を広く人権問題として捉えるとともに、社会情勢等を踏まえ、講座の内容や効果を検討する必要がある。
	（実施 12 区 未実施 10 区 不明 0 区） 東京都教育庁地域教育支援部の人権教育事業実施状況調査（H24 H23度実績）より。 ※教育委員会以外の調査は反映されていない

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	CAP講座の区内全地区で実施終了に伴い、新たな講座を企画・実施する。	新たにタブレット型パソコンを活用する学校教育に対応し、ネット内での子どもへの人権侵害等についてPTAと連携し講座を実施。	平成26年度に引き続き、新たな講座を企画・実施する。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	区民の人権教育を推進するため、継続して実施する。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
役務費	ボランティア保険	17	報償費	講師謝礼	23	報償費	講師謝礼	26
需用費	消耗品等	6	需用費	消耗品等	6	需用費	消耗品等	26
報償費		0	役務費	ボランティア保険	17	役務費	ボランティア保険	45

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 登録者数	125	125	127	135	150	
	② 活動数(延べ)	42	83	92	100	150	
	③						

問題点・課題 (指標分析)	①サポーター制度についての周知が十分でない。 ②効果的なコーディネートを行うため、登録者の具体的な活動内容（技術レベル等）を把握する必要がある。 ③サポーター活動の主旨を理解しておらず、無料で活用できる人材派遣として対応する依頼者がいる。
	他区の実況 (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区) 人材バンク、講師派遣制度等類似制度はあり

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	HP掲載ほか、福祉まつり等他部署（団体）が実施するイベントで、制度や活動を周知する等新たなPRを方法を検討する。	HP、チラシなどで活動の周知。HPをみた年齢の若いサポーターの登録があった。	HP等に活動の内容などを紹介すると共に、活動の主旨についても周知していく。
②	「活動見本市」や「体験講座」などを実施し、各サポーターの実際の活動を具体的に把握し、派遣のコーディネートにつなげていく。	コミュニティカレッジ学園祭会場内で21名のサポーターが活動紹介・体験を行った。後日、自治会等から派遣依頼があった。	「福祉まつり」でPR・体験コーナーを開設する。
③	アンケート調査を行いサポーター制度をきっかけに継続的な活動等を把握することで、事業の実施効果を把握する。	サポーターへの聞き取りなどで活動状況を把握した。	26年度の対応を踏まえ、成果の把握を継続する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	地域の人材を活用することで、青少年の健全育成や生涯教育の振興につなげることができ、合わせて区民が学びを地域に活かすきっかけとしても必要性が高い。

況議 (要 会 質 問 状)	H19 区民人材の活用方策について
-------------------------------	-------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-20	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	安藤 内線 3352
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-01-01	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費					
	01-01-01	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 58年度		根拠	荒川区立清里高原ロッジ条例、荒川区立清里高原少年自然の家条例、両条例施行規則			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	[ロッジ] 区民が、豊かな自然環境の中で荒川区ではできない体験をしたり、交流を深めたりすることにより、心身の健康増進を図る。 [自然の家] 豊かな自然環境の中での集団生活を通じて、明日を担う少年の豊かな情操と自律、協同の精神を養い、創意と活力にあふれる人間形成を図る。						
対象者等	1 荒川区内の青少年団体その他の社会教育関係団体（文化・スポーツ・自然観察・野外活動） 2 区立小・中学校（移動教室・夏期学園等の教育活動） 3 区内在住者、区内在勤者及びその家族等（文化・スポーツ・自然観察・野外活動）						
内容	【開設】昭和58年4月15日【所在地】山梨県北杜市高根町清里3545-5 【定員】ロッジ35名、少年自然の家200名 【宿泊室】ロッジ 12畳5室、9畳(ベッド)1室、研修室洋間55㎡(34畳)、談話室、食堂、浴室 自然の家 24.5畳10室、研修室24.5畳1室、リーダー室10畳2室・8畳2室、食堂、浴室、体育室 【土地】32,322㎡ 【構造】鉄筋コンクリート造2階建 【建物】延3,999.96㎡(ロッジ809.99㎡、自然の家3,189.97㎡) 【面積比】ロッジ：自然の家=2：8 【休業日】① 1月1日から4月28日（当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、当該日の直前の金曜日）まで。 ② 11月5日(当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、当該日の直後の月曜日)から12月31日まで。 (平成27年度の開設は、4月29日から11月4日まで)						
経過	昭和58～13年度 高根町に管理委託（10年間×2回） 平成14年度～ (株)ニッコトラストに業務委託 平成18～20年度 指定管理者(株)ニッコトラスト（公募） 平成21～23年度 指定管理者(株)ニッコトラスト（更新） 平成24～26年度 指定管理者ニッコトラスト・尾瀬林業プロジェクト（公募） ※平成25年7月1日 ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクトに変更 平成27～29年度 指定管理者ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクト（更新） <参考>平成27年6月、荒川区と北杜市との間で「災害時相互応援協定」が締結され、大規模災害時の拠点施設に位置付けられた。						
必要性	荒川区内では体験することが難しい自然とのふれあいや、小中学校の校外活動を行う場としての役割は大きい。						
実施方法	（3委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 指定管理者：ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクト						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
予算額	77,816	75,546	64,335	60,358	56,982	56,109	53,066	
①決算額（27年度は見込み）	77,499	66,290	62,197	58,421	56,891	56,102	53,066	
②人件費等	2,199	2,616	2,964	3,717	3,743	3,476		
③減価償却費		872	1,089	1,452	1,521	1,463		
【事務分担量】（%）	27	30	35	45	45	45		
合計（①+②+③）	79,698	69,778	66,250	63,590	62,155	61,041	53,066	
特定財源	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	16,000	11,975	10,000	7,000			
	一般財源	63,698	57,803	56,250	56,590	62,155	61,041	53,066
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	一般利用者（人）	2,044	2,065	1,857	1,813	1,467	1,646	2,000
	学校利用者（人）	7,674	8,471	7,664	8,462	8,318	8,499	9,000

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理料	52,367	旅費	管理運営指導等旅費	149	旅費	管理運営指導等旅費	155
使用料等	土地賃借料	2,549	委託料	指定管理料	52,738	委託料	指定管理料	49,542
工事請負費	冷暖房機設置工事	1,788	使用料等	土地賃借料	2,548	使用料等	土地賃借料	3,369
旅費	管理運営指導等旅費	187	備品購入費	業務用冷蔵庫、プロジェクター等	666			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 利用人数（人）	10,275	9,785	10,145	11,000	11,500	延べ利用者数
	② 宿泊部屋移動率（%）	31	36	34.8	40	45	利用部屋数／移動部屋数
	③ 利用者1人当たりの維持管理コスト（円）	5,131	7,754.5	7,665	7,020	6,715	決算額／利用者数（算出決算額は工事等臨時経費を除いた額）

（問題点・課題分析）	①開設から32年が経過しており、施設、設備を含めた計画的修繕が必要である。 ②少年自然の家は学校利用が中心であり安定的な運営を図れるが、ロッジの利用率向上が課題である。 ③重油・食材の高騰によって管理・運営経費が増大する等、物価の影響を受けやすい。
	（実施 6 区 未実施 16 区 不明 0 区） 社会教育施設のうち宿泊施設を有する区
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	不具合の生じている施設・設備については、計画的に修繕していく。	不具合の生じている施設・設備について、優先度の高い箇所から修繕を実施した。	26年度の対応を踏まえて、計画的な修繕を行う。
②	区内の団体に出向いて利用をPRしたり、指定管理者の自主事業の内容を精査する等により利用の増加を図る。	区内の施設にポスターを掲示し、周知を図った。指定管理者の自主事業については、利用の増加を図るため内容を精査した。	新たなパンフレットの製作など、PR方法を充実するとともに、事業内容の改善を図る。
③	利用状況に応じた節電対策の実施等、光熱水費等の経費削減に努める。	利用状況に応じた節電対策を実施し、光熱水費等の経費削減に努めた。	26年度の対応を踏まえて、経費削減に努める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	区民の健康増進の場、児童生徒の体験活動の場を提供するため必要であり、事業を継続する。

況議 （要 会 質 問 状）	・H26予特 通年開設の検討について
-------------------------------	--------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-21	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	町屋文化センター管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	坂野
				内線	3351		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-01-01	町屋文化センター管理運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 63年度		根拠	荒川区立町屋文化センター条例、同施行規則			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習、文化の欲求を満足させる機会をつくとともに、学習、文化活動の推進を図る。						
対象者等	荒川区内在住・在勤・在学者						
内容	<p>【開設】 昭和63年11月1日</p> <p>【所在地】 荒川区町屋7-20-1</p> <p>【土地面積】 4,137.28㎡（イーストヒル町屋）の一部</p> <p>【延床面積】 2,400㎡</p> <p>【構造】 鉄筋コンクリート造3階建</p> <p>【施設面積】 多目的ホール188.80㎡（椅子席154名収容）、音楽練習室60.78㎡、ふれあい広場480.41㎡</p> <p>第1会議室64.08㎡（36名収容）、第2会議室65.61㎡（33名収容）</p> <p>第3会議室68.57㎡（45名収容）、第4会議室 74.47㎡（45名収容）</p> <p>【利用時間】 午前9時～午後10時</p> <p>【主な事業】 カルチャー講座、自主事業（一日文化体験）等</p>						
経過	<p>昭和63年11月 施設管理・運營業務を（財）荒川区地域振興公社（ACC）に委託</p> <p>平成18～20年度 （財）荒川区地域振興公社が指定管理者として管理運営（公募）</p> <p>平成21～23年度 （財）荒川区地域振興公社が指定管理者（更新）</p> <p>平成24～26年度 公益財団法人荒川区芸術文化振興財団が指定管理者（特命）</p> <p>平成27～29年度 公益財団法人荒川区芸術文化振興財団が指定管理者（更新）</p> <p>* 東日本大震災の影響による電力不足対策として平成23年3月12日～5月15日の間、夜間利用を休止した。</p>						
必要性	カルチャー講座や文化総合講座の実施、施設の貸出し等、区民の生涯学習のニーズに合った施設であるため必要性は高い。						
実施方法	（3委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 指定管理者：公益財団法人 荒川区芸術文化振興財団						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		予算額	37,986	35,933	68,465	60,453	38,075	38,601
①決算額（27年度は見込み）		36,695	35,933	38,235	50,448	38,075	38,565	39,484
②人件費等		1,628	2,180	2,117	2,478	2,911	1,931	
③減価償却費			726	778	968	1,183	813	
【事務分担当量】（%）			25	25	30	35	25	
合計（①+②+③）		38,323	38,839	41,130	53,894	42,169	41,309	39,484
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源		38,323	38,839	41,130	53,894	42,169	41,309	39,484
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	多目的ホール（利用件数）	1,161	1,125	1,052	1,073	1,098	1,160	1,170
	音楽練習室（利用件数）	1,160	1,187	1,109	1,188	1,114	1,161	1,170
	第1～4会議室（利用件数）	3,744	3,536	3,436	3,580	3,736	3,793	3,800
	ふれあい広場（利用件数）	376	326	326	339	336	300	330

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理料	23,007	委託料	指定管理料	23,342	委託料	指定管理料	24,192
負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068	備品購入費	展示用パネル	156	備品購入費	展示用パネル	224
			負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068	負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	施設稼働率（％）	69	70	75	77	80	利用件数/利用可能数
②	利用者数（人）	181,906	188,547	183,743	190,000	200,000	延利用者数
③	カルチャー講座受講者数（人）	5,136	5,070	4,784	5,000	5,500	延受講者数

（問題点・課題 指標分析）	開設から27年を超過し、施設の老朽化や設備・備品の劣化・不具合が生じているため、随時、改修や買い替えを行ってきた。今後も修繕等についての優先順位を精査し、計画的に行う必要がある。 利便性が良く、稼働率も安定している施設であるが、より快適に利用できるよう、利用者の声を踏まえてサービスの向上を図る。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 文化センター、コミュニティセンター等の生涯学習施設
他 区 の 実 況	

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	施設利用に支障のないよう、必要な修繕を計画的に実施する。	緊急度や必要性を勘案しながら、施設・設備の修繕を計画的に実施した。	不具合の生じている施設・設備について、計画的に修繕していく。
②	カルチャー講座やななひろば等の自主事業に、利用者の意見を反映し、事業の充実を図る。	利用者の意見を参考にしながら、事業実施した。	アンケート等により利用者のニーズを把握しながら、事業の充実について協議していく。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	区民の学びの場を提供する生涯学習施設として運営するために必要である。

況 議 会 要 旨 問 状	・H25決特 附帯設備使用料の減額について
---------------------------------	-----------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-22	戦略プラン	○協働	●業務	○財務	○人事
事務事業名	生涯学習センター管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	渡辺 内線 3351
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-01-01	生涯学習センター管理運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 9年度		根拠	荒川区立生涯学習センター条例、同施行規則			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習意欲に応える機会をつくるとともに、生涯学習に関する相談、情報収集・提供等を行い、生涯学習の推進を図る。						
対象者等	区民一般 各種講座などは、18歳以上の在住・在勤・在学者を対象とする。						
内容	【開設】平成9年7月1日 【所在地】荒川区荒川3-49-1(教育センターと併設) 【土地面積】6,579.78㎡ 【延床面積】2,970.35㎡(4530.36㎡のうち) 【構造】鉄筋コンクリート4階建(うち1・3・4階部分) 【施設内容】小会議室4室(64㎡、30人程度)、大会議室(128㎡、80人程度)、音楽室(128㎡、40人程度)、多目的室(128㎡、60人程度)、学習室(64㎡、30人)、情報提供コーナー(64㎡)、体育館(700㎡)、多目的広場(3,486㎡) 【利用時間】午前9時～午後10時 【主な事業】区民カレッジ、専修学校の公開講座、IT講習会等						
経過	平成9～15年度 直営（一部業務委託） 平成16～17年度 施設運営等業務を(株)読売・日本テレビ文化センターに委託 平成18～23年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（公募、更新1回） 平成24～26年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（公募） 平成27～29年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（更新） * 東日本大震災の影響による電力不足対策として、平成23年3月12日～5月15日の間、全館夜間利用の休止（全館）、体育館等は9月10日まで夜間利用の一部休止を行った。 [多目的広場の利用拡大] ①平成26年下半年期 大人を含めた利用対象者の拡大を試行実施 ②平成27年上半年期 上記の試行期間を延長						
必要性	区民カレッジは定員を超える応募があり、区民の生涯学習に対する意欲が感じられる。生涯学習推進計画に基づき、生涯学習センターの各事業を充実し、生涯学習の一層の普及・啓発を行うていく必要性は高い。						
実施方法	(3委託) (直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員) 指定管理者：株式会社 読売・日本テレビ文化センター						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		予算額	83,010	88,896	76,008	68,103	67,738	67,251
①決算額（27年度は見込み）		74,414	81,613	70,890	65,642	66,602	66,237	67,854
②人件費等		3,868	4,465	4,765	5,079	4,842	4,600	
③減価償却費			2,179	2,488	2,743	2,805	2,698	
【事務分担当量】（%）		65	75	80	85	83	83	
合計（①+②+③）		78,282	88,257	78,143	73,464	74,249	73,535	67,854
特定財源	国	0	0	0	0	0		
	都	0	0	0	0	0		
	その他	15,204	20,204	5,225	243	240		
	一般財源	63,078	68,053	72,918	73,221	74,009	73,535	67,854
実績の推移	施設利用件数（多目的広場、PC室を除く）	6,962	6,967	6,845	7,073	7,278	7,350	7,400
	区民カレッジ（講演・講座数/回数）	10/51	11/50	9/57	13/67	12/57	11/54	11/53
	IT講習会（講座数）	54	51	41	51	50	51	51
	IT自習室利用数（人）	750	1,073	978	1,609	1,103	1,224	1,230

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理料	54,478	報償費	近隣協力員謝礼	48	報償費	近隣協力員謝礼	48
使用料等	公有地賃借料	11,550	委託料	指定管理料	54,550	役務費	サッカーゴール組立設置費等	162
備品購入費	会議用テーブル等	526	使用料等	公有地賃借料	11,550	委託料	指定管理料	54,525
報償費	近隣協力員謝礼	48	備品購入費	ワイヤレスアンプ	90	使用料等	公有地賃借料	12,546
						備品購入費	サッカーゴール	573

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 施設稼働率(%)	62	64	64	64	65	利用件数/利用可能数 (多目的広場、PC室を除く)
	② 利用者数(人)	169,333	161,052	171,050	171,100	172,000	延べ利用者数 (多目的広場、PC室を除く)
	③ 区民カレッジ受講者数(人)	3,548	3,580	3,921	3,950	4,000	述べ受講者数

問題点・課題 (指標分析)	①稼働率向上のため区民ニーズの把握に努め、接遇やサービスのいっそうの向上を図る必要がある。 ②施設・設備の老朽化が進んでおり、計画的に修繕を行っていく必要がある。 ③多目的広場は、子どもだけでなく大人等を含め利用対象者の拡大を試行実施しており、課題を整理して本格実施を進める。
	他区の実況 (実施 21 区 未実施 1 区 不明 0 区) 生涯学習センター、社会教育館、青少年センター等の生涯学習施設

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	利用者アンケートを行ったり、施設内に常時意見箱を置くことで、利用者のニーズを細かく把握する。	利用者アンケートや意見箱により、利用者のニーズの把握に努めた。	利用者アンケート等を踏まえて、サービスの改善や施設の管理運営に反映する。
②	申込方法や受益者負担について検討し、受講者が学習を継続する意欲を高める。	講座受講者の実態等について指定管理者と意見交換を行い、講座内容の充実を図った。	老朽化の度合いを確認し、指定管理者とも協議しながら、計画的に修繕を進める。
③	利用者アンケート結果等を踏まえ、多様な分野の講座を幅広く企画する。	利用者アンケート等を踏まえながら講座を企画した。	多目的広場の利用対象者拡大について本格実施を進める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	生涯学習の場を提供する拠点施設であり、継続していく。

況議 (要 会 質 問 状)	・H26予特 多目的広場の利用対象者の拡大について
-------------------------------	---------------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-23	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	荒川コミュニティカレッジ	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	内田
							1829
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-14-01	荒川コミュニティカレッジ管理運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 22年度		根拠	荒川コミュニティカレッジ実施要綱、荒川区生涯学習推進計画			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	区民が地域への関心を深めるとともに、地域活動の担い手となるために学ぶ機会を提供することにより、区民が主体的に地域活動に取り組めるよう支援する。						
対象者等	荒川区在住・在学・在勤の18歳以上の方						
内容	<p>【会場】 セントラル荒川ビル3階コミュニティカレッジ研修室ほか 【履修期間】 2年間</p> <p>(1) 必修科目 1年次は、地域活動に必要な知識やコミュニケーション力を習得する。2年次は、体験学習の実施、グループワークでの研究、学習成果の発表等により修了後の主体的な地域活動につなげる。 <昼コース（募集人員）> 1年次 あらかわ学コース（30名） 2年次 まちづくり学科 <夜コース（募集人員）> 1年次 クリエイティブコース（30名） 2年次 クリエイティブ学科</p> <p>(2) 選択科目 ・公開講座 区民一般を対象とした地域活動に関する教養講座等 ・連携講座 区が実施する人材養成講座等を単位として認定 ・選択講座 コミュニティカレッジが実施する地域活動に役立つ養成講座</p> <p>(3) その他 入学式、修了式、学園祭や修了生の活動支援を行う。</p>						
経過	○平成19年度 荒川区生涯学習推進計画策定（平成20年3月） 重点目標の新たな取り組みとして提示 ○平成20年度 （仮称）あらかわ地域大学構想懇談会の設置（12月～21年3月） ○平成21年度 （仮称）あらかわ地域大学構想策定（3月） ○平成22年度 名称「荒川コミュニティカレッジ」の決定（5月） コミュニティカレッジ開校・1期生入学（10月） ○平成23年度 2期生入学・1期生2年次開講（10月） ○平成24年度 1期生修了（9月）・3期生入学（10月） ○平成25年度 2期生修了（9月）・4期生入学（10月） ○平成26年度 3期生修了（9月）・5期生入学（10月）						
必要性	区と区民とが協働し、「幸福実感都市」を実現するための基盤づくりとして、地域社会を担う人材を育成するために必要である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ●臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
予算額	503	35,745	12,945	13,253	13,057	12,190	24,037	
①決算額（27年度は見込み）	123	27,680	7,560	8,045	8,210	10,757	24,037	
②人件費等	4,724	23,022	23,604	26,532	24,973	28,051		
③減価償却費		11,620	17,105	19,039	17,137	19,831		
【事務分担量】（%）	65	400	550	590	507	610		
合計（①+②+③）	4,847	62,322	48,269	53,616	50,320	58,639	24,037	
特定財源	国							
	都							
	その他		480	1,050	993			
一般財源	4,847	61,842	47,219	52,623	50,320	58,639	24,037	
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	入学生数（人）	-	85	41	55	54	53	60
	修了生数（人）	-	-	-	63	29	47	38
	修了後の活動割合（%）	-	-	-	90	90	90	90

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼等	2,878	賃金	臨時職員賃金	575	賃金	臨時職員賃金	863
負担金補助等	サンパール負担金	2,174	報償費	講師謝礼等	3,844	報償費	講師謝礼等	3,489
委託料	清掃委託、光熱水費	1,301	需用費	消耗品、印刷製本	1,478	需用費	消耗品、セントラル荒川現状復旧工事	3,215
需用費	消耗品、印刷製本	939	役務費	教室移転に伴う荷物運搬等	549	役務費	電話料等	919
賃金	臨時職員賃金	546	委託料	コミカレ特集号新聞折込委託等	451	委託料	セントラル荒川清掃委託等	1,790
使用料等	会場使用料等	205	使用料等	会場使用料等	400	使用料等	セントラル荒川賃料等	13,316
役務費	電話料等	133	備品購入費	デジタルカメラ、スクリーン	148	負担金補助等	電話料、水道料負担金	445

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 修了生数（合計）	63	92	139	177	210	修了生の延べ人数
	② 修了後の活動割合（％）	90	90	90	90	95	活動に取り組む修了生／全修了生
	③ 新たに立ち上げた地域活動団体数	7	2	3	5	5	

（問題点・課題 指標分析）	①コミュニティカレッジの目的や役割を広く周知し、継続的に受講生を確保する必要がある。 ②受講生の知識、能力、経験、希望等、様々な要素を考慮したカリキュラム編成の必要がある。 ③受講生・修了生が主体的に活動を行えるような活動支援を行う必要がある。
	（実施 4 区 未実施 18 区 不明 0 区） 人材育成のための長期間の講座を実施している区。それぞれの区で目的や実施方法等が異なっており、全く同じ事業はない。

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	コミュニティカレッジの目的や役割をより周知するため、地域イベントでのブース出展や、修了生の活動PR等を行う。	多くのイベントにブース出展し、ブース内容に修了生が関わることで、コミュニティカレッジ及び活動団体のPRを一体に行えた。	平成26年度の取組内容の効果を検証し、在校生・修了生の主体的な地域活動を積極的に支援し、アピールしていく。
②	関係課や団体等が実施する、様々な地域活動に関する人材育成講座などと連携し、充実した地域活動につなげる。	様々な講座と連携したことや、学習成果発表に関係課や団体を呼び、講評をもらったことにより、地域活動のきっかけをつくった。	さらに関係課や関係団体等とのネットワークを拡大し、活動に関する情報提供等を行う。
③	受講生が主体的に地域活動に取り組めるようにするため、受講生の知識、能力、経験を考慮したカリキュラムの編成及び支援する。	具体的な活動事例や手法を学び、地域活動につなげるために、カリキュラムの変更を行った。	引き続き、カリキュラムの内容等の見直しや受講生がより主体的に地域活動へ取り組むための支援を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	区民が学びの成果を活かして主体的な地域活動に参加できるように学習する場として必要である。

況 議 会 （ 要 旨 ） 質 問 状	・H24一定 町会との連携について ・H25予特 受講生・修了生の活動の場について ・H25決特 現状と今後の展望について
--	---

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-24	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	荒川ふるさと文化館管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	坂牧
				内線	1782		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-01-01	荒川ふるさと文化館管理費					
	01-02-01	荒川ふるさと文化館一般運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成		10年度	根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	9月3日	伝統的文化の保存と継承				
目的	常設展示や企画展示、文化財の保存・収集・伝統技術関連等の事業、情報提供等を行うための施設維持管理と管理運営を行い、区民の生涯学習の振興並びに荒川区における教育、学術及び文化の発展に寄与する。						
対象者等	区民全般・荒川ふるさと文化館利用者等（共有区分 南千住図書館利用者）						
内容	<p>【主な所轄事業】</p> <p>①荒川区に係る考古、歴史、民俗等資料の収集及び保存</p> <p>②常設展示及び特別展示事業(企画展等)</p> <p>③資料に係る専門的な調査研究</p> <p>④文化財の保存及び活用</p> <p>⑤郷土学習のレファレンス(資料紹介や学習アドバイス、団体見学対応等)</p> <p>⑥教育、学術及び文化の振興に関する事業(各種講座)</p> <p>⑦伝統技術の保護と育成(荒川学校職人教室・伝統技術展、荒川区伝統工芸技術継承者育成事業等)</p>						
経過	<p>【所在地】荒川区南千住6-63-1(南千住図書館と併設)【土地面積】2,723.96㎡</p> <p>【建物面積】1,499.89㎡【延床面積】5,720.69㎡(文化館2,584.59㎡、図書館2,686.1㎡)</p> <p>【構造】鉄筋コンクリート地上4階、地下1階</p> <p>【施設内容】地下1階：収蔵庫(261㎡)、視聴覚室(84㎡・45人)、研修室(53㎡・30人)、工作室(59㎡)</p> <p>1階：常設展示室(506㎡)、企画展示室(148㎡)、郷土学習室(84㎡) 2階：調査研究室(40㎡)</p> <p>4階：事務室(282㎡、図書館共用部分含む)工期】建物：平成7年10月19日～10年3月31日、常設展示：平成8年10月1日～10年3月31日</p> <p>【休館日】月曜日(月曜が祝日・振替休日の場合は開館、翌日休館)、館内整理日、年末年始(12月29日～1月4日)【入館料】100円(区内在住の障がい者とその介護者・65歳以上・中学生以下は無料)</p> <p>【開設】平成10年5月1日(開館時より南千住図書館と一括で施設管理委託)</p> <p>①建物建設3,113,381,000円②展示製作委託319,300,000円③外構(駐車場・駐輪場等)167,023,500円</p>						
必要性	荒川の歴史や文化に関心を持ち、より深く理解してもらい、郷土愛を育むための施設運営を行う必要性は高い。また近年は千住宿・奥の細道関係の観光スポットとしても注目され、平成26年度開催の奥の細道サミットの関連事業の拠点の一つにもなっている。						
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						
	清掃、警備、受付、エレベーター・電気工作物保守等は委託						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
予算額	53,476	50,538	49,488	52,712	57,659	80,960	53,776	
①決算額(27年度は見込み)	50,197	48,301	47,001	51,892	56,489	73,927	53,776	
②人件費等	8,144	6,104	7,757	6,444	1,953	5,794		
③減価償却費		2,034	2,177	2,517	1,014	2,438		
【事務分担量】(%)	100	70	70	78	30	75		
合計(①+②+③)	58,341	56,439	56,935	60,853	59,456	82,159	53,776	
特定財源の推移	国							
	都							
	その他	783	670	741	642			
	一般財源	57,558	55,769	56,194	60,211	59,456	82,159	53,776
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	文化館利用者数(人)	23,863	19,053	23,702	18,709	19,981	20,771	21,140
	展示室観覧者数(人)	19,715	14,754	18,589	14,446	15,458	16,556	17,052

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	建物維持管理業務委託等	21,895	工事請負費	収蔵庫空調改修	22,542	報酬	学芸員報酬	15,898
報酬	学芸員報酬	14,515	委託料	建物維持管理業務委託等	21,013	共済費	学芸員社会保険料	2,107
需用費	光熱水費、消耗品購入費等	10,402	報酬	学芸員報酬	15,924	報償費	企画展講師謝礼等	20
工事請負費	電気錠設備改修工事	5,345	需用費	光熱水費、消耗品購入費等	10,792	旅費	郷土資料調査委旅費等	45
共済費	学芸員社会保険料	2,048	共済費	学芸員社会保険料	2,133	需用費	光熱水費、家屋修繕費等	11,338
役務費	電話料金、郵便切手等	1,307	役務費	電話料金、郵便切手等	843	需用費	消耗品購入費等	822
旅費	郷土資料調査旅費等	684	備品購入費	資料等購入費	271	役務費	出土品トランクルーム保管料等	856

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 文化館利用者数(人)	18,709	19,981	20,771	21,140	24,000	展示室観覧者+郷土学習室利用者
	② 文化館展示室観覧者数(人)	14,446	15,458	16,556	17,052	20,000	展示室観覧者数
	③						

問題点・課題 (指標分析)	①開設後16年以上が経過し、空調、展示室検索機、自動ドアの不具合等、経年劣化により修繕が必要な箇所が増加している。
	②平成26年度の奥の細道サミット関連事業において、関係自治体の協力を得て企画展示の充実を図り、来館者の増加につなげた。荒川ふるさと文化館の来館者の増加を図るための、展示内容の充実、HPのコンテンツの充実等、PR方法の改善を検討する。
他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	経年劣化の進行等、修繕が必要な箇所を把握し、計画的な修繕を行っていく。	収蔵庫の空調設備を改修した。修繕方法を工夫し、地下への階段壁を改修することができた。	26年度の対応を踏まえ、継続して計画的に修繕していく。
②	情報をタイムリーに発信できるようHPのコンテンツの充実を図る。また、その他のメディアへの情報発信を積極的に行う。	HPの充実を図ることができた。また、その他関連雑誌等のメディアへの情報発信を積極的に行い、周知ができた。	HPのリニューアルを踏まえ、より見やすく分かりやすいコンテンツ作りを検討し、PR方法の改善を行っていく。
③	複合施設開館に伴う中央図書館機能移転に備えて、共有部分の利用・運営方法について南千住図書館と検討する。	平成26年度の運営については、毎月定例会を設けて検討することができた。複合施設開設以降については問題の抽出を行った。	南千住図書館と共に具体的な計画を策定し、郷土学習室の運営、常設展示の一部充実等を検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	推進	常設展示、企画展示、文化の保存・収集・伝統技術関連事業等の情報提供等を行う。

況議 (要旨) 会質 問状	H27・2月会議 荒川ふるさと文化館のあり方について
------------------------	----------------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-25	戦略プラン	○協働 ●業務 ○財務 ○人事	
事務事業名	荒川ふるさと文化館事業推進費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村
		担当者名	中村	内線	1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業 ●それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 10年度		根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例	
終期設定	○有 ●無 年度		法令等		
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画 ●非計画	
行政評価事業体系	分野	V 文化創造都市			
	政策	09 伝統文化の継承と都市間交流の推進			
	施策	03 伝統的文化の保存と継承			
目的	区民が、荒川ふるさと文化館の企画展を観覧したり、講座等の事業に参加したりすることにより、文化財保護への理解と郷土愛を深めるようにする。				
対象者等	区民全般、荒川ふるさと文化館来館者				
内容	<p>荒川ふるさと文化館の常設展示を補完するとともに、文化財普及・啓発のために下記の事業を行う。</p> <p>①企画展：年2回程度開催。会期1～2か月間。企画展示室においてテーマに基づいた展示を行う。入館料は、常設展示と合わせて100円。平成26年度は、企画展「モノ・道具・暮らし展 -昔の暮らしを調べてみよう-」、奥の細道千住あらかわサミット関連事業として「奥の細道・旅立ち展」を実施。</p> <p>②館蔵資料展：年1～2回開催。会期1～2か月間。館が所蔵している文化財、新たに購入した文化財等、テーマを設定し、展示を行う。</p> <p>③子ども向け講座：夏休み期間に「リトル学芸員」「あらかわ職人道場」等の体験学習を実施。</p> <p>④一般向け講座：「古文書講座（初級・中級）」「金石講座」「地域史講座」「史跡めぐり」等、講師は荒川ふるさと文化館学芸員。「文化財講座」、テーマを設定し様々な角度から荒川を探る講座、外部講師を招き実施する。</p> <p>⑤庁舎エントランス展示：平成20年度より荒川ブランドの伝統工芸品を展示。年4回展示替え。</p>				
経過	<p>1 平成24年度事業：企画展2回「再発見！あらかわの匠の仕事ー伝統工芸品展ー」「山車人形が街をゆく」・館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の展示・夏休み子ども博物館・七夕まつり・文化財講座・古文書講座・地域史講座・史跡めぐり</p> <p>2 平成25年度事業：企画展2回「東京「氷」物語」「番付から見るあらかわ」・パネル展「俳句を探（たず）ねる小さな旅ー芭蕉・梅翁・一茶ー」・館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の展示・夏休み子ども博物館・七夕まつり・古文書講座・史跡めぐり・文化財講座</p> <p>3 平成26年度事業：企画展2回企画展「モノ・道具・暮らし展 -昔の暮らしを調べてみよう-」・奥の細道千住あらかわサミット関連事業として「奥の細道・旅立ち展」・パネル展「続・俳句を探（たず）ねる小さな旅ー芭蕉・梅翁・一茶ー」・館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の展示・夏休み子ども博物館・七夕まつり・古文書講座・史跡めぐり・文化財講座</p>				
必要性	収集した資料・情報を活用し、区民に郷土の歴史・文化に親しみ理解を深める機会を提供しており、また区の歴史・文化を資源として活用し区のPRに役立てており、必要性は高い。講座はコミュニティカレッジ連携講座にも位置づけられ、区民自らが郷土の歴史を探求する手法を学ぶ場となっている				
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員)				

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
予算額	7,094	8,438	7,408	7,021	6,885	7,302	6,277	
①決算額（27年度は見込み）	5,227	6,915	5,795	5,616	5,766	6,307		
②人件費等	8,756	13,991	15,491	15,067	12,693	12,399		
③減価償却費		7,844	9,486	9,681	9,126	8,128		
【事務分担量】（%）	195	270	305	300	270	250		
合計（①+②+③）	13,983	28,750	30,772	30,364	27,585	26,834	0	
特定財源	国							
	都							
	その他	743	452	789	503	978		
	一般財源	13,240	28,298	29,983	29,861	26,607	26,834	0
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	企画展（回）	2	2	2	2	2	2	2
	館蔵資料展（回）	2	2	1	1	1	1	2

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	展示制作等委託料	2,422	需用費	企画展図録・ポスター等	2,001	報償費	企画展講演会謝礼等	396
需用費	企画展図録ポスター等	2,240	委託料	企画展展示等製作委託	1,748	委託料	企画展展示製作委託	2,456
役務費	企画展美術梱包輸送	721	役務費	企画展美術梱包輸送	1,728	需用費	企画展図録・ポスター等	2,254
報償費	企画展講演会謝礼等	363	報償費	企画展講演会謝礼等	347	役務費	企画展美術梱包輸送費等	872
賃借料	展示品賃借・使用料	20	旅費	企画展展示資料調査旅費	332	賃借料	展示品に係る賃借料・使用料	150
			賃借料	展示品に係る賃借料・使用料	151	旅費	企画展展示資料調査旅費	149

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 企画展入館者数(人)	5,027	4,927	5,684	6,000	6,000	企画展（年2回）の入館者数
	② 各種事業延参加者数(人)	530	418	477	500	550	講座・講演会など延参加者数
	③						

（問題点・課題 指標分析）	①企画展については、テーマや内容により入場者数が大きく変動するため、区民のニーズを踏まえたテーマの設定や、質の高い展示を行い、リピーターを増やしていく必要がある。
	②各種事業参加者が減少傾向にあるため、他課と類似した事業は見直し、文化館の特性を生かした事業を展開することが必要である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①		サミットと関連し、アンケートでも要望の多い奥の細道をテーマとする企画展を実施し、多くの入館者を得た。	奥の細道関連の資料収集に努め、展示の充実を図っていく。
②	事業参加者アンケート等を分析し、参加者減の原因を把握するとともに、PR方法等の見直しを行う。	企画展テーマと関連した雑誌等のメディアに開催情報を投稿しPRを充実させ、企画展観覧者を増加につなげた。	事業の魅力伝える対応策を実施し、参加者の増加につなげる。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	郷土の歴史や、文化に親しむ講座・展示等を提供する事業を実施する。

況議 （要 会 質 問 状	H25・2定 荒川区にゆかりのある小松崎茂に関する展示について
------------------------------	---------------------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-26	戦略プラン	○協働	●業務	○財務	○人事
事務事業名	奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	鍛冶 内線 1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	---						
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成 19年度		根拠	無し			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	V 文化創造都市					
	政策	09 伝統文化の継承と都市間交流の推進					
	施策	03 伝統的文化の保存と継承					
目的	区内の小学生が、「俳句」という日本伝統の文化を学び、国語能力向上につなげるようにする。また、南千住が松尾芭蕉の「奥の細道」旅立ちの地であることから、むすびの地である大垣市と、俳句の事業を通じて、住民同士の交流を深めることを目指す。						
対象者等	区内の小学生						
内容	1 夏休み子ども博物館俳句教室（夏休み 荒川ふるさと文化館） 2 大垣市「芭蕉蛤塚忌全国俳句大会」（10月 大垣市） 3 文化祭・俳句展示会ジュニア部門募集（展示11月 町屋文化センター） 4 大垣市「全国東西俳句相撲」（11月 大垣市 ※平成27年度から2月） 前年度子ども俳句相撲大会上位者を派遣（小学生2人×2組）。 5 荒川区子ども俳句相撲大会・予選（1月 区内） 6 荒川区子ども俳句相撲大会千秋楽【本選】（3月 区内） 予選通過選手及び大垣市からの招待選手によるトーナメント。						
経過	○平成19年度：第1回奥の細道矢立初めの地「子ども俳句相撲大会」を、荒川ふるさと文化館企画展「千住大橋鉄橋化80周年」の関連事業として実施。以降年1回3月に実施 ○平成22年度は東日本大震災の影響で大会を中止、23年度は事業中止 ○平成25年度第10回全国東西俳句相撲（大垣市）に区内の小学生2組4名を派遣、横綱（優勝）・関脇（殊勲賞）を受賞 ○平成25年度奥の細道矢立初めの地「子ども俳句相撲大会」。日時：平成26年3月8日（土）、会場：素盞雄神社、大垣市から小学生3組6名を招待。 ○平成26年度第11回全国東西俳句相撲（大垣市）に区内の小学生2組4名を派遣、大関賞（準優勝）・幕内賞を受賞 ○平成26年度奥の細道矢立初めの地「子ども俳句相撲大会」。日時：平成27年3月14日（土）、会場：日暮里サニーホール、大垣市から小学生3組6名を招待。						
必要性	荒川区俳句のまち宣言を受けて、子どもたちが俳句文化に触れる機会を充実させ、南千住が奥の細道矢立初めの地であることを学び、郷土愛を育む事業として必要性が高い。また、俳句を通じて奥の細道の結びの地である大垣市との交流を深めることができる。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		1,295	1,227	1,171	684	835	854
①決算額（27年度は見込み）		916	371	0	476	649	754	
②人件費等		4,683	4,761	0	2,492	4,665	9,638	
③減価償却費			2,179	0	1,646	3,549	6,665	
【事務分担量】（%）		75	75	0	51	105	205	
合計（①+②+③）		5,599	7,311	0	4,614	8,863	17,057	0
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源	5,599	7,311	0	4,614	8,863	17,057	0
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予選参加チーム数（組）	59	90	—	227	245	180	200
	（予選参加者数）	（118名）	（180名）	—	（254名）	（490名）	（360名）	（400名）

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	会場設営委託	375	需用費	消耗品費等	318	報償費	大会選者謝礼	107
報償費	大会選者謝礼	72	委託料	会場設営委託	205	旅費	大会・引率派遣旅費	78
旅費	大会・教室引率派遣旅費	71	報償費	大会選者謝礼	102	需用費	消耗品費等	247
需用費	消耗品費等	70	旅費	大会・引率派遣旅費	74	役務費	賞状筆耕料	27
負担金補助等	大会派遣参加費	49	負担金補助等	大会派遣参加費	51	委託料	会場設営委託	404
役務費	賞状筆耕料	12	役務費	賞状筆耕料	4	負担金補助等	大会派遣参加費	58

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
①	子ども俳句相撲大会予選参加者数(組)	227	245	180	200	250	2人一組で応募する
②							
③							

（問題点・課題分析）	俳句という伝統文化を学ぶことができ、また、国語能力の向上につながる。引き続き小学校全校が参加する事業として周知し、教育委員会と連携して実施していくことが望ましい。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	教育委員会と連携して大会の周知を図り、全小学校の参加及び保護者の参観を促す。	日暮里サニーホールで開催し、多くの参観者を得た。	参加意欲を促すための工夫をし、参加校・参加者のさらなる増加を図る。
②	文化交流推進課、観光振興課と連携を図る。	奥の細道千住あらかわサミット関連事業として開催し、両課と連携を図り実施した。	サミットは終了したが、引き続き両課と連携を図り実施する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
推進	推進	俳句という伝統文化を通じて、子どもたちの国語能力の向上を図るとともに、奥の細道旅立ちの地を区内外に発信する。

況議 （要旨） 会質 問状	H27・1月観光文化、H27・2月会議 俳句宣言後の取組について
------------------------	----------------------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-27	戦略プラン	●協働 ○業務 ○財務 ○人事	
事務事業名	文化財保護奨励費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村
		担当者名	川上	内線	3807-9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-03-01	文化財保護審議会			
	01-03-02	文化財保護奨励			
	01-03-04	映像記録保存			
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業 ●それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成 47年度		根拠	荒川区文化財保護条例 文化財保護法	
終期設定	○有 ●無 年度		法令等		
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画	
行政評価事業体系	分野	V 文化創造都市			
	政策	09 伝統文化の継承と都市間交流の推進			
	施策	03 伝統的文化の保存と継承			
目的	区民に伝えられる有形・無形の文化財を区民全体の財産として、その保存・活用のための必要な措置を講じ、区民の文化的向上に資するとともに、郷土文化の振興と発展に貢献する。				
対象者等	区民一般、文化財所有者・保持者・団体、文化財保護審議会委員、文化財保護推進員、土地・建築関係業者				
内容	①文化財保護審議会 教育委員会の諮問を受け答申する。平成26年度区登録2件・区指定2件 ②文化財保護推進員 文化財の保護と啓発活動をする非常勤職員 区民15名で構成 隔月推進員会の開催 ・区内文化財等の調査活動 ・文化財事業等の協力 ③史跡説明板 設置：年1基 修理：臨時(予算の範囲内) (平成27年3月末現在 133基) ④年中行事・民俗芸能映像記録保存 平成21年～24年度 お諏方さまのまつり 25年度と26年度は撮影対象者体調不良のため休止 ⑤埋蔵文化財の調査「文化財保護法」により、区内周知の包蔵地における土木工事等の届出に関する事務処理（都へ進達他）、確認調査立会い、本格調査の実施に関する調整事務を行う ⑥文化財保護奨励金等の交付 文化財の保護奨励等のため、区登録・指定文化財の所有者、保持者及び団体に予算の範囲内で奨励金を交付。また区指定文化財の修理に対して補助金を予算の範囲内で交付。				
経過	○主な経過 昭和62年度：日暮里延命院貝塚A地点発掘 平成17年度：町屋四丁目実揚遺跡A発掘調査 平成19年度：旧三河島污水処分場唧筒場国重文指定、旧三河島污水処分場唧筒場国重文指定 平成21年度：旧千住製絨所煉瓦塀が日本紙通商株式会社より区に寄贈（補強工実施）、橋本佐内墓旧套堂復元工事実施 平成22年度：旧千住製絨所煉瓦環境整備工事・説明板設置 平成23年度：小塚原首切地蔵復元工事（第1・2期） 平成24年度：小塚原首切地蔵復元工事（第2期）、養福寺二天像修復工事（第1期） 平成25年度：養福寺二天像修復工事（第2期） 平成26年度：養福寺二天門修復工事について検討				
必要性	荒川区の歴史・文化を知るうえで貴重な有形・無形の文化財を保護し、区の伝統・文化を次代に伝えるため、また区の文化資源として活用するため、必要である。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） 文化財保護審議会（文化財登録・指定の場合） ①教育委員会事務局内部調査 ②文化財保護審議会に諮問 ③審議・部会調査 ④答申 ⑤教育委員会決定 ⑥告示				

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
	予算額		13,415	24,095	11,465	14,416	11,670	12,730	16,057
①決算額（27年度は見込み）		9,965	19,226	7,378	11,767	9,034	9,911	16,057	
②人件費等		10,142	9,715	13,087	10,278	8,335	7,025		
③減価償却費			6,101	8,708	7,680	6,253	5,364		
【事務分担量】（%）		240	210	280	238	185	165		
合計（①+②+③）		20,107	35,042	29,173	29,725	23,622	22,300	16,057	
特定財源の推移	国	遺跡発掘調査等事業費	1,050	1,600	1,250	582	1,172	1,159	2,000
	都	遺跡発掘調査等事業費	1,659	9,093	625	291	586	580	1,000
	その他		46	47	49	71	49	37	18
	一般財源		17,352	24,302	27,249	28,781	21,815	20,524	13,039
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
	文化財保護推進員会（回）	6	6	6	6	6	6	6	
	文化財保護審議会・部会（回）	8	8	8	8	8	8	8	
	指定・登録文化財件数（件）	6	6	6	4	6	4	5	
	埋蔵文化財調査支援委託（件）	14	9	7	8	10	16	10	

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	文化財保護奨励金・補助金	3,733	委託料	埋文調査・説明板設置等	5,411	報酬	審議会委員・推進員報酬	3,782
委託料	埋文調査・説明板設置等	2,909	負担金補助等	文化財保護奨励金・補助金	2,053	報償費	祭礼調査等謝礼	1,264
報酬	審議会委員・推進員報酬	2,050	報酬	審議会委員・推進員報酬	1,907	旅費	審議会委員旅費等	113
使用料等	煉瓦塀敷地借地料	166	需用費	消耗品費・物品修繕費等	325	需用費	消耗品費・物品修繕費等	790
需用費	消耗品・物品修繕等	146	賃借料	煉瓦塀敷地借地料	166	役務費	文化財登録書筆耕等	89
旅費	審議会委員旅費等	24	役務費	文化財登録書筆耕等	32	委託料	埋文調査・説明板設置等	5,602
役務費	文化財登録書筆耕	6	旅費	審議会委員旅費等	19	賃借料	煉瓦塀敷地借地料	167

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 文化財新規登録件数	2	4	2	3	3	総数 H24 : 257 H25 : 258 H26 : 258
	② 文化財新規指定件数	2	2	2	2	2	総数 H24 : 56 H25 : 57 H26 : 58
	③						

問題点・課題 (指標分析)	①登録文化財の候補は、寺社調査・区史編纂調査・石造物調査等で収集した情報から選定しており、建造物や近代遺産等の登録件数は少ないため、調査計画を作る必要がある。
	②伝統工芸の保持者について把握するための工夫を行い、登録して保存する必要がある。
他区の実況	③平成27年2月以降、各地の寺社等で発生している文化財の汚損について、文化財の所有者に周知するとともに防犯対策の強化について依頼する必要がある。
	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	これまでに収集してきた情報のほか、東京都の建造物の調査等を活用し、総合的に区内建造物を把握し、適切な保存方法を検討する。	次年度検討資料として建造物を含む文化財に関する情報収集ができた。また新たに祭礼等伝統行事についても情報収集を実施した。	引き続き資料を収集し計画的に文化財として登録する。収集した情報に基づき具体的な保存方法について検討する。
②	区報や公式ホームページで呼びかけ伝統工芸技術の保持者の所在を把握するとともに調査を行い、登録数を増加させる。	区報や公式ホームページでの呼びかけには至らなかったが、区民から情報提供を受け調査を実施した。	区報やホームページで呼びかけるとともに、荒川伝統工芸技術保存会や郷土史研究者などの協力を仰いで情報収集に努める。
③			警察署、消防署と連携し、区内文化財に対する防犯、防火の強化に努める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
推進	推進	区の有形・無形文化財を次代に伝えるとともに、区の文化資源として活用する。

況 議 会 要 旨 問 状	・H22決特 史跡説明板への浮世絵写真の掲載について ・H24決特 富士見坂の景観の文化財としての価値について
---------------------------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-28	戦略プラン	○協働 ●業務 ○財務 ○人事
事務事業名	文化財交流事業	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名
		担当者名	鍛冶	内線
				1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）				
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業	○それ以外の継続事業
開始年度	○昭和 ●平成	17年度	根拠	荒川区文化財保護条例 文化財保護法
終期設定	○有 ●無	年度	法令等	
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準	計画区分	○計画 ●非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市	
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進	
	施策	03	伝統的文化の保存と継承	
目的	荒川区や交流都市の文化財を通して、区民と交流都市との文化交流を深めることができるようにする。			
対象者等	区民一般、区外からの来訪者			
内容	<p>○荒川ふるさと文化館エントランス等において、荒川区と交流都市の文化財等をパネルを中心として紹介する。区内の史跡・文化財の中には、他の自治体に関係する文化財が数多くある。橋本左内の墓旧套堂、松尾芭蕉の句碑、大関・石川・宗・佐竹等大名屋敷跡は、福井・大垣・黒羽・対馬・秋田などと荒川区の歴史の関連を伝えるものである。これら文化財を通じてゆかりの自治体を紹介する。</p> <p>○25年度は、奥の細道千住あらかわサミットのプレイベントに関連し、特に奥の細道のルート上の交流都市について、パネル・観光パンフレットにより広く紹介した。サミット開催年度である26年度には、さらにパンフレット等の情報量を増やし、広く周知した。27年度も、エントランスの奥の細道サミットで交流を深めた関係団体のパンフレット等を配置する。</p>			
経過	<p>○平成17年12月、橋本佐内墓套堂が区に寄贈。19年度：文化館敷地内への移設を決定し、「橋本左内墓旧套堂」を文化財登録。20年度：套堂復元工事完成、記念セミナー実施（21年3月）。21年度：福井県から橋本左内像が区に寄贈、旧套堂内への橋本左内ブロンズ像設置セミナー実施（22年3月）。</p> <p>○22年度：三河島の山車人形と交流都市である潮来市の山車人形のパネル展を実施（22年3月～6月）</p> <p>○23年度：隅田川から見える富士山と筑波山を詠んだ区指定有形文化財亀田鵬齋の詩碑や、諏訪台からの筑波山眺望の変遷、校歌に筑波山を含む小中学校、つくば市の概要をパネルで紹介（24年3月～5月）</p> <p>○24年度：文化財交流事業を拡大し、企画展として他自治体等の山車人形を展示紹介</p> <p>○25年度：奥の細道サミットのプレイベントとして、パネル展「俳句を探（たず）ねる小さな旅－芭蕉・梅翁・一茶－」開催。サミットで交流を深めた関係団体の各種パンフレットを通年でエントランスに配置</p>			
必要性	橋本左内の墓旧套堂、松尾芭蕉の句碑、大関・石川・宗・佐竹等大名屋敷等は、文化財的な価値及び観光資源としての価値が高く、これらを題材に区民・観光客に荒川区の文化財をPRし、また交流都市について周知する必要性は高い。			
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員）			

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		600	456	456	0	0	0
①決算額（27年度は見込み）		390	335	0	0	0	0	
②人件費等		2,689	2,738	1,543	1,209	705	1,955	
③減価償却費			1,307	778	581	507	1,626	
【事務分担量】（%）		40	45	25	18	15	50	
合計（①+②+③）		3,079	4,380	2,321	1,790	1,212	3,581	0
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		3,079	4,380	2,321	1,790	1,212	3,581
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	観覧者数（人）	-	3,187	2,928	-	2,797	2409	2,800

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費		0	需用費		0	需用費		0
委託料		0	委託料		0	委託料		0

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① パネル展観覧者数（人）		2,797	2,409	2,800	3,000	展示中の展示室観覧者＋郷土学習室利用者数
	②						※24年度は企画展として実施
	③						

（問題点・課題分析）	26年度「奥の細道千住あらかわサミット」の開催を踏まえ、関連資料の充実を図る。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区） 定期的な事業として実施している区は無い。
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	区内外の松尾芭蕉や奥の細道にちなんだ文化財とサミット参加自治体の町の魅力について紹介し、3月のサミット開催について周知する	エントランス・企画展示室でのパネル展により、芭蕉・奥の細道関連の文化財と関係自治体の魅力を紹介し、またサミット開催を周知できた	平成26年度奥の細道千住あらかわサミットを契機に、俳句文化の伝承も視野に入れたテーマを検討する。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	奥の細道サミットに関連する句碑や関係資料等、荒川区と交流都市の史跡・文化財をパネルで紹介し、交流都市との文化交流を深める。

況議 （要 会 質 問 状）	・H19予特 橋本佐内套堂の早期復元と回向院に縁のある歴史上の人物などの顕彰について
-------------------------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-29	戦略プラン	○協働 ●業務 ○財務 ○人事	
事務事業名	江戸伝統技術	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村
		担当者名	鍛冶	内線	1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）		01-03-03	江戸伝統技術		
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業 ●それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成 55年度		根拠		
終期設定	○有 ●無 年度		法令等		
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分 ●計画 ○非計画		
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市		
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進		
	施策	03	伝統的文化の保存と継承		
目的	江戸時代から受け継がれてきた無形文化財である伝統工芸技術と保持者の存在を広く区内外に周知する。区民が伝統工芸技術の素晴らしさに触れることにより、技術の保存・継承への理解を深めるとともに、伝統工芸技術保持者の技術継承の意欲促進を図る。				
対象者等	伝統工芸技術及び保持者 伝統技術保持者の継承者 伝統技術展来場者 職人体験道場参加者 伝統工芸技術記録映像視聴者 文化館展示観覧者 学校職人教室実施校児童				
内容	○あらかわの伝統技術展：区内の伝統技術保持者等が一堂に会して、作品の展示・技術の実演・来場者の体験コーナー等を行う（会場：荒川総合スポーツセンター）。 ○荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業：荒川区登録無形文化財保持者、指定無形文化財保持者及び荒川区伝統工芸技術保存会会員を対象に、その技術継承者育成のための手当を支給する。 ○学校職人教室：伝統工芸技術保持者が小学校に赴き、技術の実演・解説・児童の体験学習等を行う ○伝統工芸技術記録映像制作：指定無形文化財保持者の伝統工芸技術を記録する映像を制作 ○伝統工芸品購入：指定無形文化財保持者の作品を購入（原則、記録映画で制作過程撮影した作品） ○職人体験道場：夏休み子ども博物館の事業として、伝統工芸技術を体験できる教室を実施。				
経過	○あらかわの伝統技術展：昭和55年度より開催。平成26年度第35回（7月4日～6日） ○荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業：平成21年度より実施（27年4月現在：対象者10人） ○学校職人教室：昭和59年度より開催。平成19年度より全校で実施 ○伝統工芸技術記録映画制作：昭和60年より実施。26年度：井上喜夫氏（指物）／50本 ○伝統工芸品購入：平成元年より購入。26年度購入品：指物（楽屋鏡台） 累計／56点 ○職人体験道場：平成16年度試行実施し、17年度より予算化し本格実施				
必要性	・伝統工芸技術の素晴らしさを区内外に紹介し、理解を深める貴重な機会となっている ・区の伝統工芸技術の保存・継承のために欠かせない事業である				
実施方法	（一部委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 伝統技術展は荒川区・荒川区教育委員会・荒川区伝統工芸技術保存会の共催。技術展会場設営は業者委託。伝統工芸技術記録映像は業者委託により制作。				

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		31,021	36,954	41,998	33,686	29,589	31,873
①決算額（27年度は見込み）		26,528	29,436	32,170	31,185	28,881	29,999	33,696
②人件費等		11,649	11,354	16,109	14,403	13,958	11,832	
③減価償却費			5,955	8,553	8,229	9,971	8,290	
【事務分担量】（%）		255	205	220	255	295	255	
合計（①+②+③）		38,177	46,745	56,832	53,817	52,810	50,121	33,696
特定財源の推移	国		2,791	0	0			
	都		1,036	1,155	0	0		
	その他		141	4	6	10		
	一般財源		37,000	42,795	56,826	53,807	52,810	50,121
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	「伝統技術展」入場者数（人）	15,000	13,500	14,000	15,000	13,200	14,700	15,000
	「継承者育成事業」参加者数		9	11	11	9	9	10
	「学校職人教室」参加校数（校）	23	24	24	24	24	24	24
	伝統工芸記録映像（本）（）内累計	1(45)	1(46)	1(47)	1(48)	1(49)	1(50)	1(51)

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	匠育成支援事業補助金	12,680	負担金補助等	匠育成支援事業補助金	12,800	報償費	伝統技術展謝礼・学校職人教室謝礼	2,540
委託料	技術展会場設営委託等	9,539	委託料	技術展会場設営委託等	9,990	需用費	技術展ポスター制作等	997
報償費	伝統技術展謝礼	2,563	報償費	伝統技術展謝礼学校職人教室謝礼	2,305	役務費	技術展ポスター掲示等	1,545
役務費	技術展ポスター掲示等	2,112	役務費	伝統技術展ポスター掲示等	1,745	委託料	技術展会場設営委託等	10,450
使用料等	技術展会場使用料	1,020	備品購入費	伝統工芸品購入	1,296	使用料等	技術展会場使用料	1,044
需用費	技術展ポスター制作等	927	使用料等	技術展会場使用料	985	備品購入費	伝統工芸品購入	800
備品購入費	伝統工芸品購入	40	需用費	技術展ポスター制作等	603	負担金補助等	匠育成支援事業補助金	16,320

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 伝統技術展入場者数	15,000	13,200	14,700	15,000	16,000	
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	伝統技術展について、PRの強化や新たな関連事業の実施により、入場者数の増を図る。
	他区の実況 （実施 5 区 未実施 17 区 不明 0 区） ①伝統技術展は、他に文京・北・葛飾・江東・墨田・練馬の各区で実施しているが、規模・業種・職人数において、基礎自治体の事業として最大級であり全国一である。②学校職人教室は全国で荒川区のみ。③伝統工芸技術継承者育成支援事業は、教育委員会で開催している自治体は全国で荒川区のみ。

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	・テレビ、新聞等に掲載を依頼し、区内外へのPRを強化する。 ・保存会と連携し伝統工芸の魅力を広める新たな事業を開拓する。	区内全小学校の参加を実現した。	東京オリンピック・パラリンピック開催時のおもてなしの基軸としての事業の進め方を検討する。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
推進	推進	荒川区の伝統工芸技術を区内外に紹介し、合わせて区民への関心や理解を促すとともに、小・中学校の伝統文化・地域学習を推進する。

況議 （要 質 問 状 ）	
------------------------------	--